第3章 史跡上之国館跡の概要

第1節 史跡上之国館跡の調査と整備の概要

1. 花沢館跡

花沢館跡は、正保3年(1646)に成立した松前藩の歴史書『新羅之記録』で、長禄元年(1457)のコシャマインの戦いで茂別館(北斗市)と共に陥落を免れた館とされる。

北海道史蹟名勝天然記念物調査会委員の河野常吉氏は、大正5年(1916)に花沢館跡の測量図を作成し、大正13年(1924)の『北海道史蹟名勝天然記念物調査報告書』に土塁の痕跡を残し旧跡歴然であるとして「現状を毀損せざるを条件とし永く保存すべきものと認む」との意見を付している(図3-1)。

昭和20年(1945)頃には、頂上部で耕作中に開 元通寳から永楽通寳を含む銅銭2,000枚、鉄鍋(釜) が採集されている。昭和30年(1955)代には、北 西側の舌状に延びる丘陵先端部が国道敷設のた め削平を受けている。

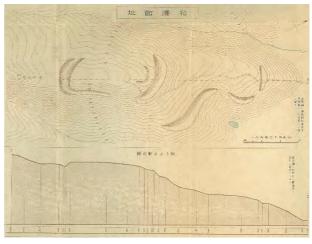


図 3-1 大正 5 年(1916) 9月 河野常吉氏測量図 (北海道庁 1918『北海道史附録地図』より転載)



写真 3-1 花沢館跡 遠景(南から)



写真 3-2 花沢館跡 (上空から「右が北」)

(1)調査成果と整備事業の概要

① 調査成果

花沢館跡は、館の構造や範囲が不明であったため、平成10年度(1998)に館跡周辺の分布調査、さらに平成16~17年度(2004~2005)、令和元~2年度(2019~2020)にトレンチによる指定地内の遺構確認調査を行っている。

その結果、沢に挟まれた尾根の頂上部の平 坦面とその北側の斜面や平坦面で空堀・土塁、 腰曲輪、柵、焼土層などの遺構や15世紀中葉 の遺物を確認し、きわめて短期間に機能した 「戦国期以前の山城」であることが明らかと なっている。さらに、遺物からは陶磁器や金属 製品の他、信仰に係る懸仏、茶道具、アイヌ系 遺物も確認され、和人が防御に利用した山城 という従来の認識とは異なった成果を得てい る(表 3-1、図 3-3~3-6)。

下限年代は出土遺物から勝山館跡が築かれる文明2年(1470)頃以前の廃絶で、花沢館館主蠣崎季繁が没した寛正3年(1462)頃である。 焼土層は、下限年代を示す青磁雷文帯碗、青磁無文直口碗が被熱を受けていたことから、 長禄元年(1457)の「コシャマインの戦い」による廃絶、もしくは寛正3年(1462)頃の廃城

に伴う焼失が推測できる。

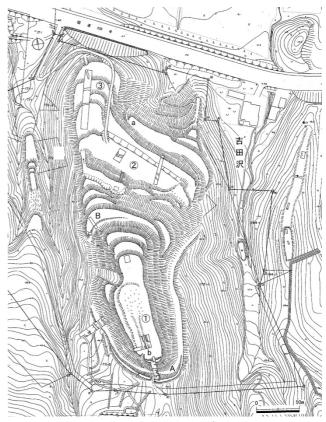


図 3-2 花沢館跡 縄張図 (室野 2007)

これまでの調査成果から、花沢館跡の縄張りは図 3-2 に示したとおり、大きく標高 45~60m の頂上部周辺の主郭(①)と大手側の幅の広い腰曲輪(②)及び北西に張り出し部分(③)に分けられる。また、主郭の搦手を堀切(A)で区切り、前面には二段の腰曲輪と細い小さな空堀(B)を配すなど、頂上部の主郭を固く防御している(図 3-2)。

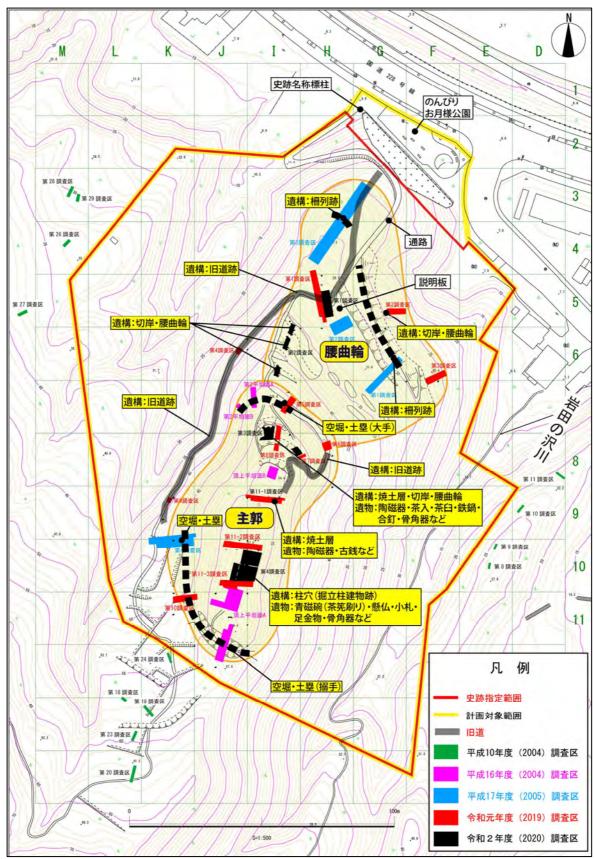


図 3-3 花沢館跡 遺構配置・調査区位置図

表 3-1 発掘調査で確認された遺構・遺物

区画	位 置	遺構	遺物	遺物からみた 機能した年代
主郭	頂上部周辺(標高 45 ~60m)	土塁・空堀(大手、搦手)、 腰曲輪・切岸、柱穴、通路跡、 焼土層	陶磁器、金属製品(鉄製品・銅 製品)、銅銭、石製品、骨角器	15 世紀中葉
腰曲輪	頂上部北側斜面·平 坦面 (20~45m)	柵列、腰曲輪・切岸、通路	陶磁器、金属製品(鉄製品)、 石製品	15 世紀中葉



写真 3-3 主郭遺構検出状況



写真 3-4 懸仏 出土状況



写真 3-5 空堀 (搦手)



写真 3-6 骨角器 出土状況



写真 3-7 北側平坦面 (大正期盛土堆積状況)



写真 3-8 柵 検出状況

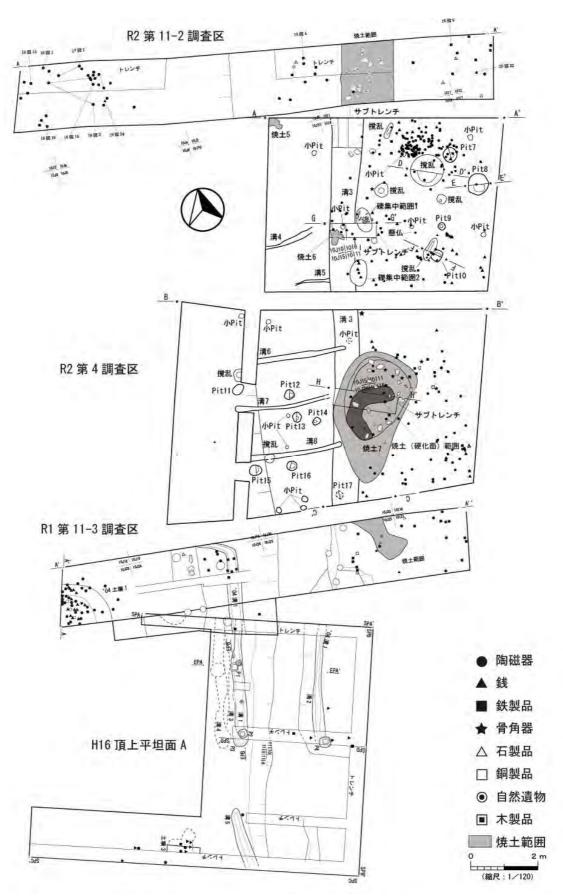
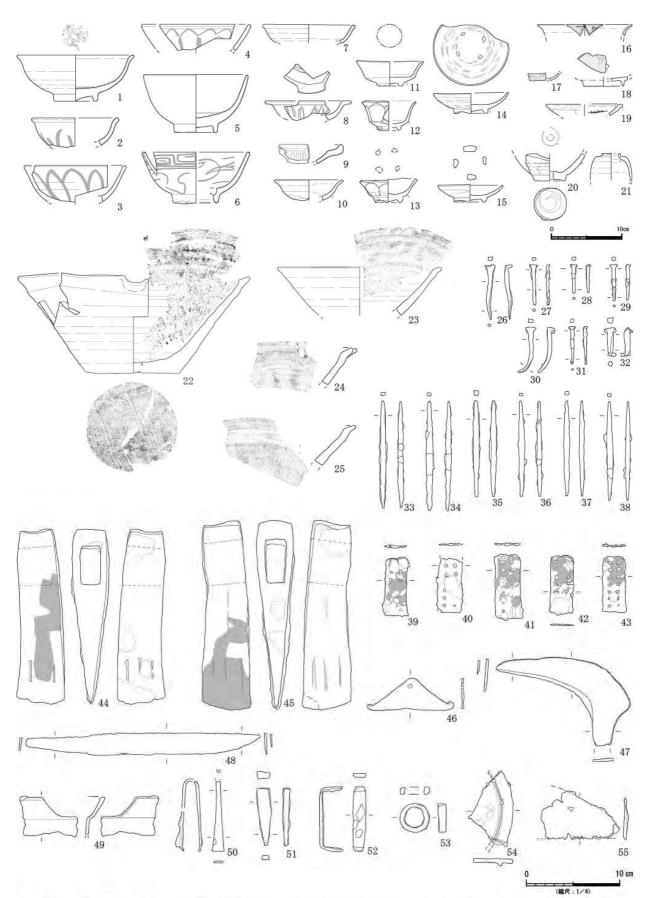
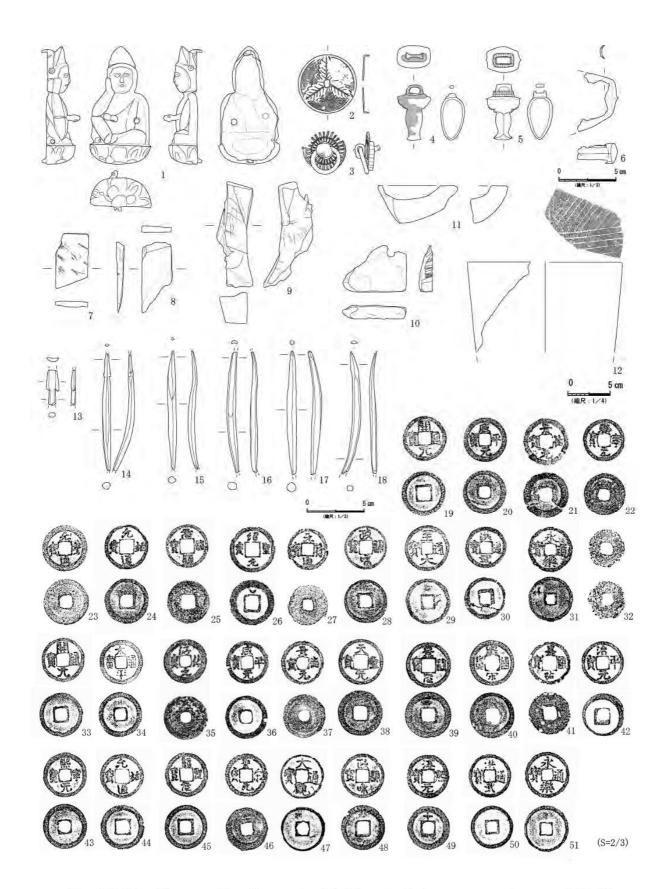


図 3-4 花沢館跡 主郭(頂上部平坦面)遺構平面図



1: 青磁碗 (D2類) 2・3: 青磁碗 (B2類) 4: 青磁碗 (B3類) 5; 青磁碗 (E類) 6: 青磁碗 (C2類) 7: 青磁皿 (D2類) 8: 青磁皿 (B2類) 9: 青磁盤 10: 白磁端反皿 (D群) 11: 白磁腰折皿 (D群) 12~13: 白磁八角坏 (D群) 14・15: 白磁丸皿 (D群) 16~18: 染付碗 (B群) 19: 古瀬戸卸皿 (後1 日期) 20: 古瀬戸天日茶碗 (後日期) 21: 古瀬戸茶入 (後期) 22~23: 珠洲ナり鉢 (V期) 24~25: 珠洲ナり鉢 (V期) 26~32: 釘 33~38: 合釘 39~43: 小札 44・45: 鉄斧 46: 火打金 47: 鎌 48: 刀子 49: 鉄鍋 50: 毛抜き 51: 楔 52 鏡 53: 締金具 54 茶釜 55: 鋸

図 3-5 花沢館跡 出土遺物 1



1: 懸仏 2: 鑞付金具 3: 鐶座 4・5: 足金物 6: 賴尻 7・8: 砥石 (仕上げ砥) 9: 砥石 (中砥) 10: 温石 11・12: 茶臼 13・14: 骨角器 (鏃) 15~18: 骨角器 (中柄) 19: 開元通賣 20: 咸平元賣 21: 景祐元賣 22: 熙寧元賣 23: 元豊通賣 24・25: 元祐通賣 26: 紹聖元賣 27: 元符通賣 28: 政和通賣 29: 至大通賣 30: 洪武通賣 31: 永樂通賣 32: 無文銭 33: 開元通賣 34: 太平通賣 35: 淳化元賣 36: 咸平元賣 37: 景徳元賣 38: 天聖元賣 39: 景祐元賣 40: 皇宗通賣 41: 嘉祐通賣 42: 治平元賣 43: 熙寧元賣 44: 元祐通賣 45: 紹聖元賣 46: 聖宋元賣 47: 大觀通賣 48: 政和通賣 49: 淳熙元賣 50: 洪武通賣 51: 永樂通賣 (33~51: 昭和 20 年頃の採集資料)

図 3-6 花沢館跡 出土遺物 2

②整備事業

昭和 52 年度 (1977) の史跡指定以降は、除草による遺構の顕在化及び維持管理を実施している以外、目立った整備を行っていない。唯一、平成 22 年度 (2010) に史跡名称を刻んだ標柱を館入口脇へ設置しているのみである。標柱の仕様は三館で統一し、白ミカゲ石を用いて、地表面からの高さ 180 cm、30 cm四方の角を 5 mm面取りしたものとなっている。

2. 洲崎館跡

洲崎館跡は、長禄元年(1457)のコシャマインの戦いを収束させた武田信広によって築かれ、寛正 3年(1462)に砂館神社の前身である毘沙門金像を納めた堂を建立している(『新羅之記録』所収)。

昭和36年(1961)に砂館神社の南西側の町道沿いから、開元通寳や永楽通寳を含む銅銭約2,500枚を採集し、青磁・白磁なども出土している。昭和54年(1979)には、神社東方120mほどの砂丘上の畑地から珠洲すり鉢(V期)を被った人頭骨を発見している。

また、昭和58年(1983)には神社南西側の砂丘の砂取りによって地形が改変され、その際に大量の 陶磁器と擦文土器を採集している。



写真 3-9 洲崎館跡 遠景 (上空から「上が北西」)



写真 3-10 洲崎館跡 遠景 (上空から「左が北」)

(1)調査成果と整備事業の概要

①調查成果

洲崎館跡では範囲や構造(縄張)把握のため、平成11~13年度(1999~2001)にテストピットやトレンチによる詳細分布調査を行っている。調査箇所は、砂館神社境内地を中心に周辺の砂丘上や東南の平坦部など合わせて69ヶ所に及ぶ。史跡指定後の平成30~令和2年度(2018~2020)には、土塁・空堀や柵などの防御遺構の検出を目的とした遺構確認調査を実施している。

その結果、砂館神社の北側では中世の遺構・遺物が検出せず、砂館神社東西の標高 12m ほどの砂丘上と神社南~南東側の低地で中世の遺構・遺物を確認している (表 3-2、図 3-7~3-10)。

遺構は、土塁・空堀が砂館神社東に位置する砂丘直下で検出している。砂館神社南〜南東側の低地では、竪穴建物跡や掘立柱建物跡の柱穴に切り合い関係なども確認できるため、複数時期に建替えが行われていたことが推測できる。

遺物は、砂館神社東西の砂丘上で文献史料の築城年代である長禄元年(1457)に伴う 15 世紀中葉、神社南〜南東側の低地で 13 世紀後葉〜16 世紀の年代幅を示す陶磁器が出土している。遺物量は、15 世紀中葉が多く、勝山館跡が機能する 15 世紀後葉〜16 世紀前葉で急激に減少する。

縄張りは、遺構や遺物の分布から館築城時期の遺物を出土する砂丘上が「主郭」と考えられ、砂館神社南東側の低地を「南郭」としている。これまでの調査成果から洲崎館跡は、蠣崎氏が天の川を取り込んで北に勢力を拡大し、「境界の館跡」としての役割を担っていたと思われる。

また、中世以前では参道入口東隣で竪穴住居から9世紀~10世紀後半の擦文土器が土師器坏や五所川原産須恵器を伴って出土しており、当時から本州との交易を行っていたことが考えられている。

表 3-2 発掘調査で確認した遺構・遺物

区画		位置	遺構	遺物	遺物からみた 機能した年代
定史地跡	主郭	砂館神社東 西の標高 10 ~12m の砂 丘	中世一土塁、空堀、曲輪	古代-擦文土器 中世-陶磁器(15世紀中葉)、金属 製品、銅銭	9~10 世紀、 15 世紀中葉
内指	南郭	砂館神社南 東側の低地	古代-竪穴住居 中世-柵、掘立柱・竪 穴建物、柱穴、土壙	古代-擦文土器・須恵器 中世-陶磁器 (13 世紀末以降)、金 属製品、銅銭、骨角器、ガラス玉	9~10 世紀、 13 世紀末~ 16世紀
定 史	南郭	砂館神社南 東側の低地	中世-柱穴、土壙	中近世-陶磁器(15世紀中葉~17世紀初頭)、金属製品、骨角器	15 世紀中葉 ~17 世紀初 頭

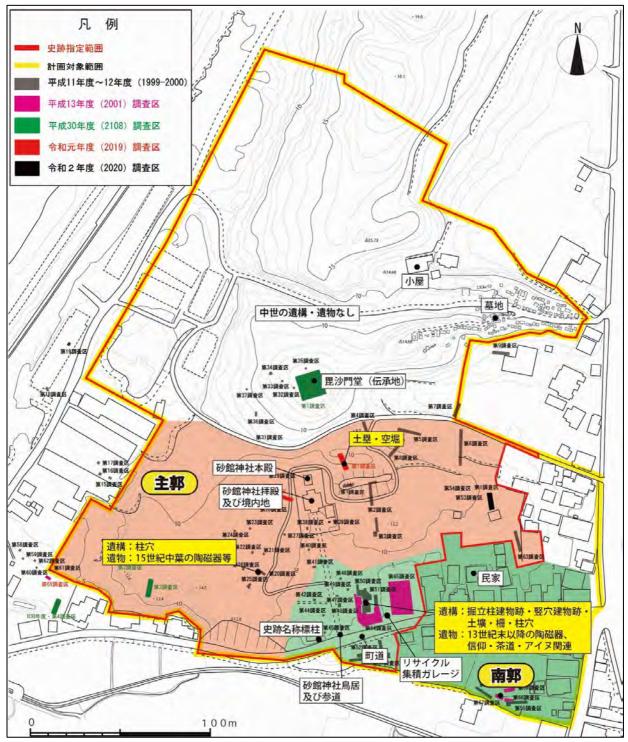


図 3-7 洲崎館跡 遺構配置·調査区位置図

②整備事業

平成 17 年度(2005)の史跡指定以降は、除草による遺構の顕在化及び維持管理を実施している以外、目立った整備を行っていない。平成 20 年(2008)4月上ノ国町が史跡上之国館跡の管理団体に指定されたことに伴い、平成 22 年度(2010)に、史跡名称を刻んだ標柱を館入口脇へ設置している。

標柱の仕様は三館で統一し、白ミカゲ石を用いて、地表面からの高さ 180 cm、30 cm四方の角を 5 mm 面取りしたものである。



写真 3-11 砂館神社本殿



写真 3-12 竪穴建物跡



写真 3-13 柵 検出状況



写真 3-14 銭緡 出土状況



写真 3-15 近世遺構 検出状況



写真 3-16 近世遺構 完掘状況



写真 3-17 竪穴建物跡



写真 3-18 和鏡出土状況



写真 3-19 白磁皿 (D 群) 出土状況



写真 3-20 中世遺構 完掘状況



写真 3-21 土壙 完掘状況



写真 3-22 土壙 馬歯出土状況



写真 3-23 和鏡 出土状況



写真 3-24 掘立柱建物跡 検出状況



写真 3-25 掘立柱建物跡 礎盤状況



写真 3-26 掘立柱建物跡 礎盤状況

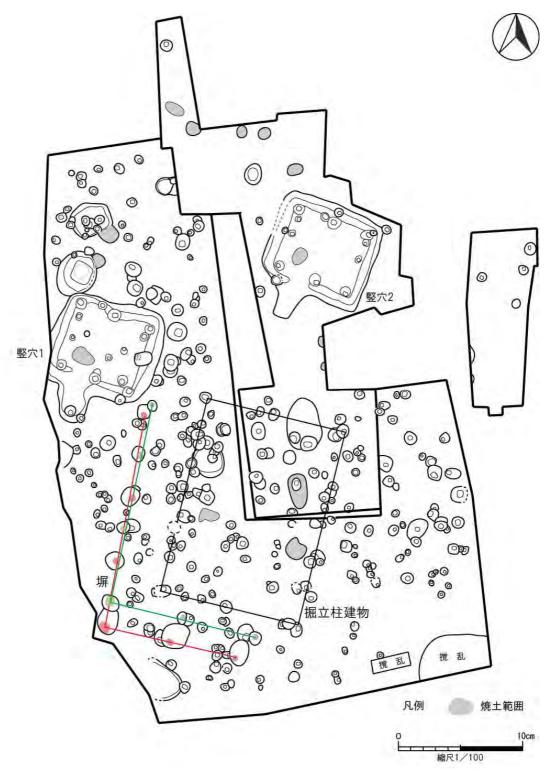
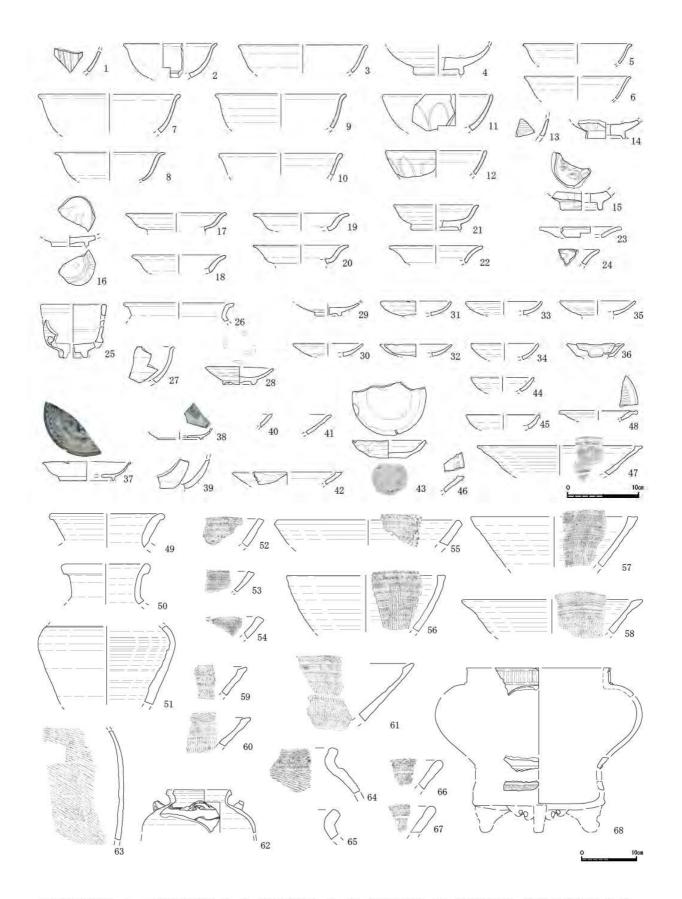
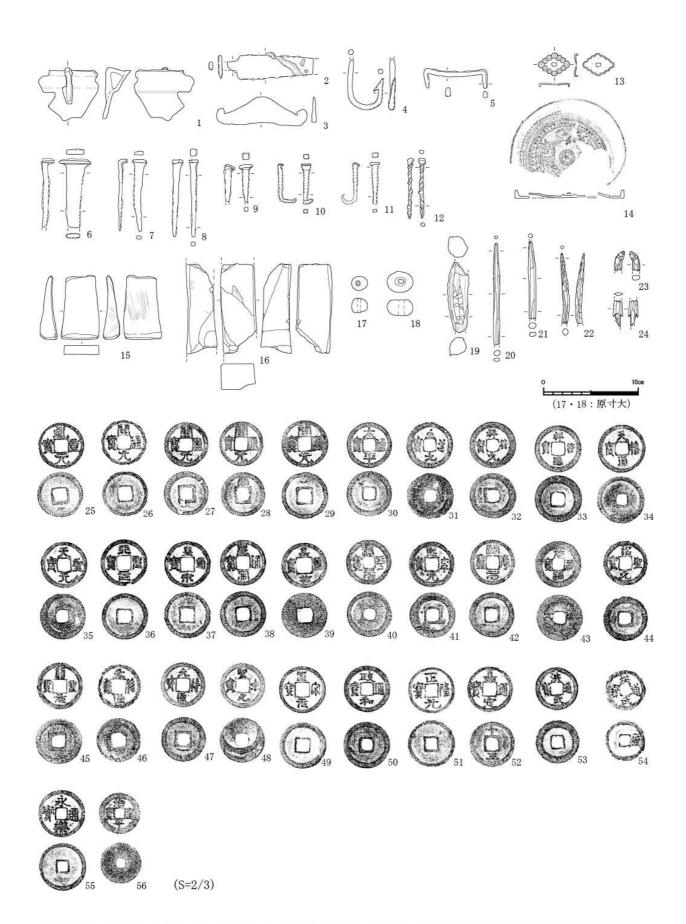


図 3-8 洲崎館跡 南郭(第50・51・64調査区)遺構図



1: 青磁碗 (B2 類?) 2 ~ 6: 青磁碗 (D1 類) 7 ~ 10: 青磁碗 (D2 類) 11 ~ 16: 青磁碗 (B2 類) 17 ~ 22: 青磁腰折皿 23·24: 青磁稜花皿 25·26: 青磁卷炉 27: 白磁碗 28 ~ 35: 白磁丸皿 (D 群) 36: 白磁人角坏 37·38: 染竹端反皿 (B1 群) 39: 中国鉄釉天目茶碗 40·41: 瀬戸灰釉平碗 (後 I ~ II) 42: 古瀬戸卸皿 (後 III) 43 ~ 45: 古瀬戸緑釉小皿 (後 III~III) 46·47: 古瀬戸卸目坏大皿 (後 IV 古) 48: 折縁皿 (大 4) 49·50: 古瀬戸四耳壺 (不明) 51: 古瀬戸瓶子 (後 期) 52 ~ 55: 珠洲擂鉢 (IV期前半) 56·57: 珠洲擂鉢 (IV期後半) 58 ~ 60: 珠洲擂鉢 (V期) 61: 珠洲擂鉢 (V期) 62: 珠洲四耳壺 (I b 期) 63 ~ 65: 珠洲甕 (V 期) 66·67: 越前擂鉢 (III 財 b 類) 68: 瓦質風炉

図 3-9 洲崎館跡 出土遺物 1



1: 鍋 2: 刀子 3: 火打金 4: 釣針 5: 鎹 6・7: 平釘 8~11: 角釘 12: 火箸 13: 飾金具 14: 銅鏡 15・16: 砥石(中砥) 17・18: ガラス玉 19: 骨角器(未成品) 20~22: 骨角器(中柄) 23: 骨角器(不明製品) 24: 骨角器(鏃) 25: 軋元重寳 26~29: 開元通寳 30: 太平通寳 31: 至道元寳 32: 祥符元寳 33: 祥符通寳 34: 天檀通寳 35・36: 天聖元寳 37・38: 皇宋通寳 39: 嘉祐通寳 40~42: 熙寧元寳 43: 元祐通寳 44・45: 紹聖元寳 46・47: 元符通寳 48・49: 聖宋元寳 50: 政和通寳 51: 正隆元寳 52: 嘉定通寳 53・54: 洪武通寳 55: 永樂通寳 56: 治平聖寳(ベトナム銭)

図 3-10 洲崎館跡 出土遺物 2

3. 勝山館跡

勝山館跡は、蠣崎氏の娘婿となった武田信広が 館神八幡宮を創祀した文明5年(1473)頃に築城 し、16世紀末~17世紀初頭まで機能している。

曲輪は、日本海側へ延びる尾根上に構築され、標高約 100m 地点に最も大きい主郭が設けられ、その北側に北郭、さらにその東西に東郭・西郭が配される。主郭の前後は空堀で区切られ、左右は宮の沢と寺の沢が流れる深い谷を利用して防御を固めている(図 3-11)。

整備を伴う発掘調査は、昭和54年~平成22年度(1979~2010)に主郭を中心に行い、多くの建物遺構や墳墓の他、10万点を超える遺物が出土している。

特に、アイヌ墓などの発見から館内で和人とアイヌの共生が判明したことは、これまでの認識を覆す大きな成果となり、平成20年(2008)に和人とアイヌの関わりを考える上で欠かせない資料として921点が重要文化財に指定されている。

蠣崎氏は、永正11年(1514)に松前に進出するものの、その後も勝山館跡に城代を置いて交易の拠点として機能させている。天文20年(1551)の「夷狄商舶往還法度」では、蠣崎氏が西部セタナイアイヌの長であるハシタイン、東部知内アイヌの長チコモタインと協定を結び、交易で往来する商船から「夷役(えぞやく)」と呼ばれる年俸を徴収し、東西のアイヌの長に配分することでアイヌとの緊張関係の緩和に成功している。



図3-11 大正5年(1916)10月 河野常吉氏の勝山館跡測量図 (北海道庁1918『北海道史附録地図』より転載)

(1)調査成果と整備事業の概要

①調査成果

勝山館跡は、30 有余年にわたって、館跡主体部の主郭を中心に総面積約 25,000 ㎡で遺構確認調査を行った(図 3-14~3-16)。

検出した遺構は、掘立柱建物跡約 200 棟、竪穴建物跡 103 基、礎石建物跡 3 棟、井戸 3 基、土壙約 250 基、墓約 110 基、櫓、門、柵、塀、空堀(大手 2 条・虎口 1 条、搦手 3 条)、橋の跡などである(図 3-12)。

アイヌ関連遺構は、館跡後方の墳墓群の中に「和人」の屈葬土葬墓を挟んで、ほぼ同時期の「アイヌ」の伸展葬墓2基を確認している。その他、荒神堂周辺からもアイヌ墓が見つかっている。



図 3-12 勝山館跡の復元 CG

出土遺物の中世陶磁器、金属製品、木製品など多量の出土遺物からは、武器や武具で身を固め、茶道をたしなむ武者、狩猟・漁撈具を携え山野河海を駆ける狩人、住家や馬屋の普請につとめる職人、フイゴの羽口や鉄滓などは鍛冶職人、銅の鋳造跡からは「鋳物師」などの技術者集団が想起できる。金剛盤や鈷杆などの宗教具からは修験者たち、紅皿、毛抜き、簪、銅鏡などからは女性の姿も彷彿とされ、長さ15cmほどの下駄から子どもの姿も想像できる。

また、梅毒に罹った人骨の出土は膨大な貿易陶磁の搬入とともに、この館跡が海を通じ東アジアの世界と繋がっていることを物語るものである(表 3-3、図 3-17~3-20)。勝山館跡の終末年代は、志野焼(大窯4)や唐津焼(胎土目)の出土から16世紀末~17世紀初頭とし、館の人々は廃城後に館直下の海浜部に居を移している。

これまでの調査成果から勝山館跡は「戦国期の山城」として機能し、遺構・遺物の分布や特性から以下の通り整理した。なお、区画名は過年度の調査によって得られた名称を踏襲している(図 3-13)。

表 3-3 発掘調査で確認した遺構・遺物

区画			遺構	遺物	遺物からみた機能 した年代
	夷王↓	J墳墓群	和人墓(土葬・火葬・火葬施設)、 配石遺構	木棺、和釘、副葬品(漆器、 銅銭、数珠玉、太刀他)	15 世紀後半~16 世紀
	搦手		空堀(橋)跡、ゴミ捨て場、和人墓 (土葬)	魚貝骨・獣骨・木製品等	15 世紀後半~16 世紀
	西郭		寺の沢用水施設(井戸跡、貯水池、 木樋)	ソバ・ドクダミの花粉	15 世紀後半~16 世紀
	東郭		■中世-掘立柱建物跡・地割 ■近世-石積・門	■中世ー陶磁器・釘他■近世ー陶磁器・釘他	15 世紀後半~16 世紀、19 世紀
史跡指定地	主郭	客殿 周辺	■中世-物見跡、柵列跡、櫓門跡、 馬屋、井戸跡、排水溝跡、中央通 路跡、竪穴建物跡・掘立柱建物跡・ 礎石建物跡、庭跡、鍛冶鋳造跡、 ■近世-中央通路	■中世ー陶磁器、金属製品、 鍛冶鋳造関連遺物(羽口、 るつぼ、銅滴、銅滓) ■近世ー陶磁器、キセル	15 世紀後半~16 世紀(※中央通路 は、明治9年まで 使用)
		館神八幡宮周辺	■中世-館神八幡宮跡、掘立柱建物 跡、竪穴建物跡、柵列跡 ■近世-遺構:館神八幡宮跡、石積、 石段、中央通路	■中世-銅銭(輪銭)、仏具 ■近世-遺物:銅銭	15 世紀後半~16 世紀(館神八幡宮 と中央通路は、明 治9年まで使用)
	北郭		■中世一大手空堀(橋)、虎口(空堀・橋・土塁)、中央通路(側溝)、和人墓(土葬・火葬) ■近世ー遺構:中央通路、土層墓	■中世-木製品、シロシ入り白磁、副葬品(漆器、銅銭他)、魚介骨 ■近世-遺物:副葬品(漆器、銅器、銅銭他)	15 世紀後半~16 世紀(中央通路は、 明治 9 年まで使 用)
	大手		■中世-荒神堂(礎石建物跡)、物見跡、和人墓、アイヌ墓、通路跡 ■近世-荒神堂(礎石建物跡)、石積・階段、和人墓、旧道跡	■中世-副葬品(漆器、銅銭 他) ■近世-副葬品(漆器、銅銭 他)	15 世紀後半~19 世紀(旧道跡は、明 治9年まで使用)
	宮の沢両岸		■中世-空堀状遺構、掘立柱建物跡、 土葬墓 ■近世-礎石建物跡(中世末~近世 初頭)、土層墓	■中世-陶磁器、副葬品■近世-宮の沢右岸地点出 土品(イクパスイ、アイヌ 弓、祈祷具)、副葬品	15 世紀中葉~19 世紀

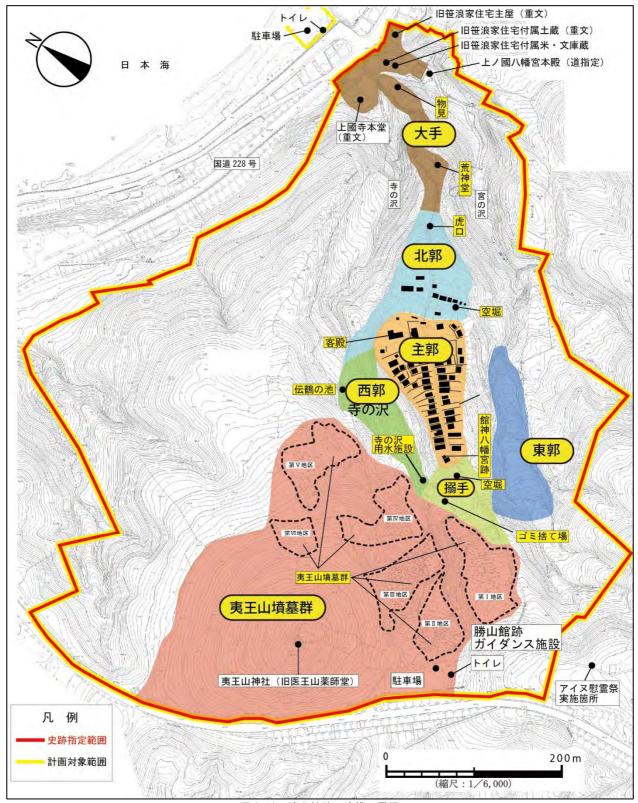


図 3-13 勝山館跡 遺構配置図

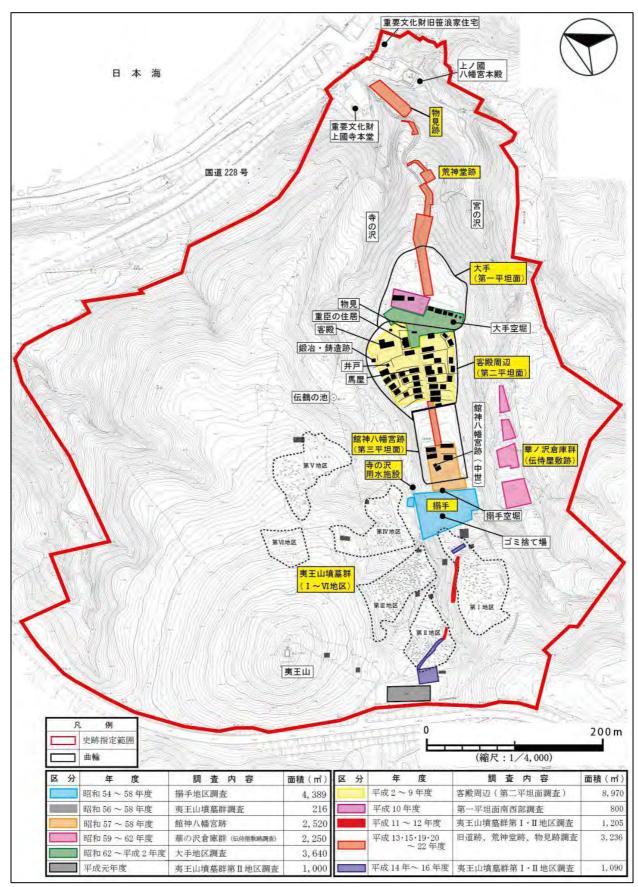


図 3-14 勝山館跡 調査区位置図

1) 搦手・寺の沢の調査(昭和54~56年度)

搦手では3条の空堀を検出し、空堀覆土の遺物や 魚貝層などから、館内での生活に伴うゴミ捨て場の 存在が考えられた。

また、それらの中には大量の骨角器や木製品などが混じっており、クジラやシカの半製品や未製品、使用痕・補修痕も確認でき、アイヌが館内で行った 生産活動を示すものとした。

寺の沢(西郭)では、木樋や木製溜井戸枠の用水 施設跡を検出し、水仕事をする空間が設けられてい ることが明らかとなった。

2)館神八幡宮跡及びその周辺の調査(昭和57~58年度)

主郭の館神八幡宮跡では近世の礎石列や鳥居跡を検出し、北側に間ロー間六尺、奥行一間七尺の規模で中世の社跡を確認している。礎石列は、明和7年(1770)建立の本殿覆屋とし、本殿は明治9年(1876)まで所在した。

賽銭と思われる寛永通寳が周囲から大量に出土している。

3) 伝侍屋敷跡の調査(昭和59~62年度)

主郭より一段低い南東下の東郭は、地元の伝承で「侍屋敷跡」との旧名が残っており、発掘調査では、21の段状の区画(地割り)から約20棟の総柱の倉庫跡と10棟の掘立柱建物跡を確認している。その他、近世の建物跡に伴う石列や土塁と門跡を検出しているが、主郭と比較すると出土遺物が少ない。

4) 大手の調査(昭和63~平成2年度)

大手の発掘調査では、柵列跡や二重の空堀・橋・ 門・柵列・櫓などの防御遺構を検出しているが、こ の構成は一貫した計画のもとでほぼ同時期に成立 したものと考えられる。

一方、二重の空堀中間の土塁基底部から土葬墓を 検出しているが、遺構の切り合い関係から空堀が構 築される前の土葬墓であることが判明している。

また、空堀は堆積から人為的に埋め戻されている ことを確認しており、埋戻しの年代について 16 世紀 中頃が考えられている。



写真 3-27 搦手空堀



写真 3-28 館神八幡宮跡



写真 3-29 華の沢倉庫群跡



写真 3-30 大手空堀の調査

5) 主郭の調査(平成3~15年度)

主郭の発掘調査では中央に幅3.6mの通路が通り、 その左右は溝と段で100㎡前後の矩形状に地割りし、 建物が整然と建ち並んでいることが判明した。

建物跡は、延べ約 180 棟を確認したが、これらは 館が存続した約 130 年の間に 5~6 回ほど造り替え られ、6 期の変遷を想定している。また、建物は掘 立柱建物跡と半地下式の竪穴建物跡にほぼ二分さ れ、礎石建物跡が 2 棟確認できる。掘立柱建物跡で は 3 間×9 間の客殿をはじめ、住居や倉庫、厩など に利用され、竪穴建物跡は作業場(工房)や倉庫に 使用されていたと考えられている。その他には井戸 の上屋、鉄や銅の鍛冶作業場跡も確認している。

6)夷王山墳墓群第Ⅰ·Ⅱ地区補充調査(平成11~ 15年度)

夷王山墳墓群の発掘調査では、「和人」の土葬墓や 火葬墓のほかに、東頭位伸展葬のアイヌ墓2基を発 見した。太刀や小刀、漆器が副葬され、一基は合葬 墓で、その一人はニンカリ(耳飾り)を付けていた。 いずれも江戸時代のアイヌ墓と同一の埋葬様式に よるもので、従来から指摘のあった館内でのアイヌ 混住説を裏付ける有力な物証となっている。

また、アイヌ墓に隣接する場所から1間×1間の配石遺構2基を検出している。この遺構の石は、上面が平滑で矩形をなす配置状況から建物の礎石と思われる。配石遺構の周囲には、径1~3cmの砂利が敷かれ、砂利直上から唐津胎土目皿が出土している。

そのため、配石遺構の時期については 16 世紀後半と考えられている。

配石は、柱間寸法が 2.5~3尺で下位に土葬の第 131・124・128 号墓がある。礎石建物跡は、霊屋な どの建物と想定している。

7) 館跡直下の宮の沢両岸の調査(平成11~12年度)

旧笹浪家住宅(主屋)の保存修理に伴う宮の沢川 右岸地区の調査で、1640年降下の Ko-d 火山灰層直 下で慶長期頃の遺物包含層から多量の遺物が出土 している。

それらの中で特筆すべき出土遺物は、イクパスイ や桜皮巻の丸木弓、高台裏に刻印のある漆器、中柄 などのアイヌ関連遺物を確認し、上ノ国が和人地と されていた近世初期においてもアイヌと和人が共 生していたことを物語っている。



写真 3-31 主郭建物検出状況



写真 3-32 アイヌ墓と和人墓



写真 3-33 配石遺構



写真 3-34 木製品出土状況

8)旧道跡、荒神堂跡、物見跡の調査(平成13~22年度)

主郭を縦貫する中央通路は、館神八幡宮が明治9 年(1876)まで所在していたことから参道に用いら れていた。

その後は、主郭が畑地として利用され、昭和45年 (1970) に散策用の自然研究路としてコンクリート ブロックで整備している。

大手から虎口を経て、荒神堂跡の横を通り、館入口の物見 跡周辺に至る旧道跡の調査では、館盛行時(中世)と館廃絶 後(近世)の旧道跡を確認している。



写真 3-35 礎石建物跡の検出

また、蠣崎宗家の季広に謀反し、殺害された基広の霊を鎮めるため建立したと伝わる荒神堂跡の調 査では、江戸時代の布掘の柵跡、石積、二間四方の礎石の柵跡、鳥居跡を検出した。中世の遺構では 軸の異なる礎石建物跡を2棟検出している。

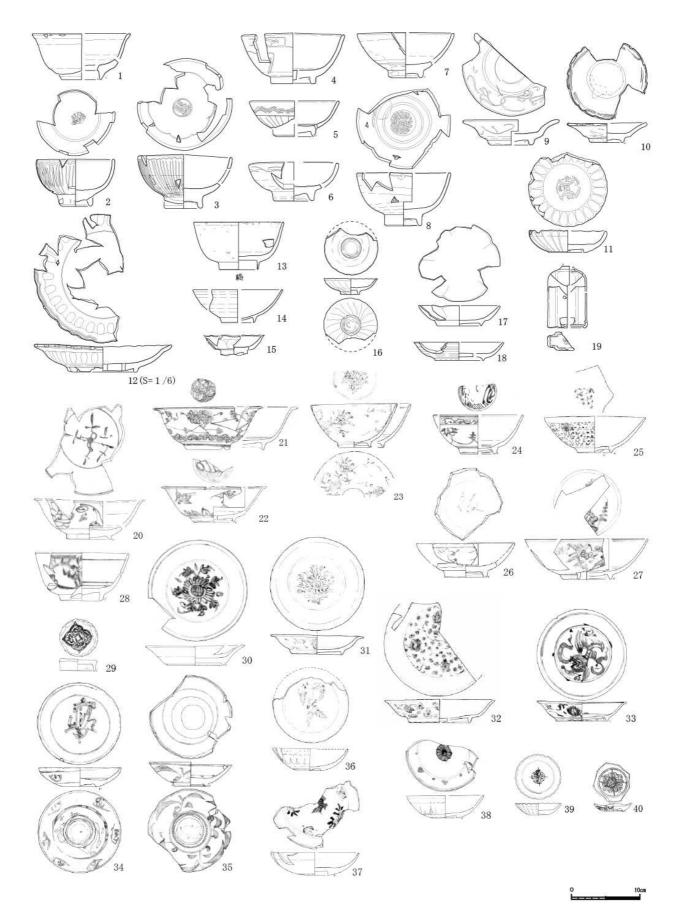
さらに、北東に延びる尾根筋では、4箇所ほどの小さい平場が造成され、物見跡とされてきたが、 調査では下から2段目の平場で中世の物見跡を検出している。



図 3-15 主郭(館神八幡宮周辺)遺構配置図

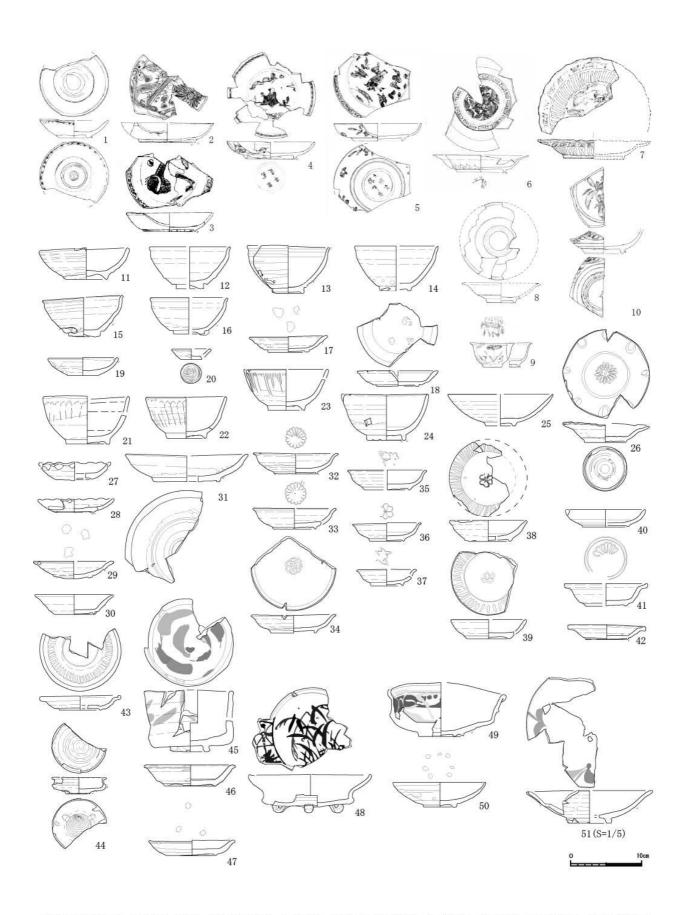


図 3-16 主郭(客殿周辺)遺構配置図



1: 青磁碗 (D2 類) 2·3: 青磁碗 (B4 類) 4: 青磁碗 (C2 類) 5·6: 青磁碗 (C3 類) 7·8: 青磁碗 (E 類) 9: 青磁腰折皿 10: 青磁稜花皿 11: 青磁輪花皿 12: 青磁盤 13: 白磁碗 (群不明) 14: 白磁碗 (E 群) 15: 白磁八角坏 16·17: 白磁輪花皿 (E 群) 18: 白磁丸皿 (E 群) 19: 白磁壺 20 ~ 22: 染付碗 (B 群) 23 ~ 27: 染付碗 (C 群) 28: 染付碗 (D 群) 29: 染付碗 (E 群) 30: 青磁染付皿 31 ~ 33: 染付皿 (B1 群) 34 ~ 40: 染付皿 (C 群)

図 3-17 勝山館跡 出土遺物 1



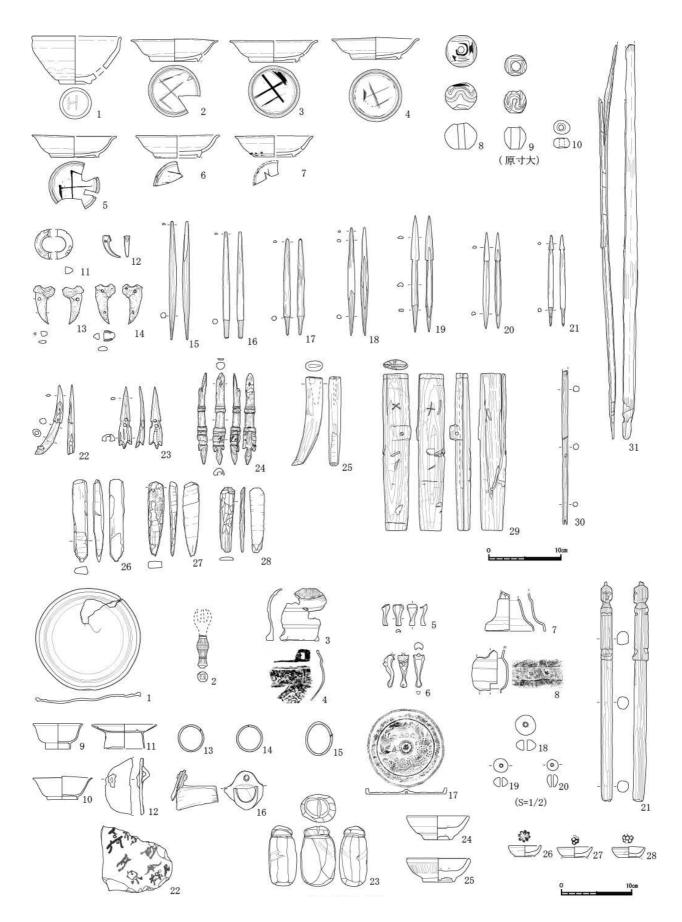
 1: 染付皿 (C 群)
 $2 \sim 5$: 染付皿 (E 群)
 6: 染付皿 (F 群)
 7: 染付盤
 8: 染付皿 (漳州窯系)
 9: 染付坯
 10: 赤絵碗
 11: 朝鮮小碗
 12·13: 鉄釉天目茶碗 (大 2)
 15: 鉄釉天目茶碗 (大 3)
 16: 鉄釉天目茶碗 (大 4)
 17·18: 鉄釉腰折皿 (後 V 新)
 19: 鉄釉梗皿 (大 2)

 20: 鉄釉皿
 $21 \sim 24$: 灰釉丸碗A (大 1 前)
 25: 灰釉平碗 (大 1)
 26: 灰釉稜花皿 (大 1)
 27·28: 灰釉稜花皿 (大 3)
 29: 灰釉腰折皿 (後 V 新)

 30: 灰釉反皿 (大 1)
 $31 \sim 37$: 灰釉端反皿 (大 1)
 $38 \sim 40$: 灰釉丸皿 (大 2)
 41: 灰釉折縁皿 (大 3)
 42·43: 灰釉折縁皿 (大 4)
 44: 灰釉香炉

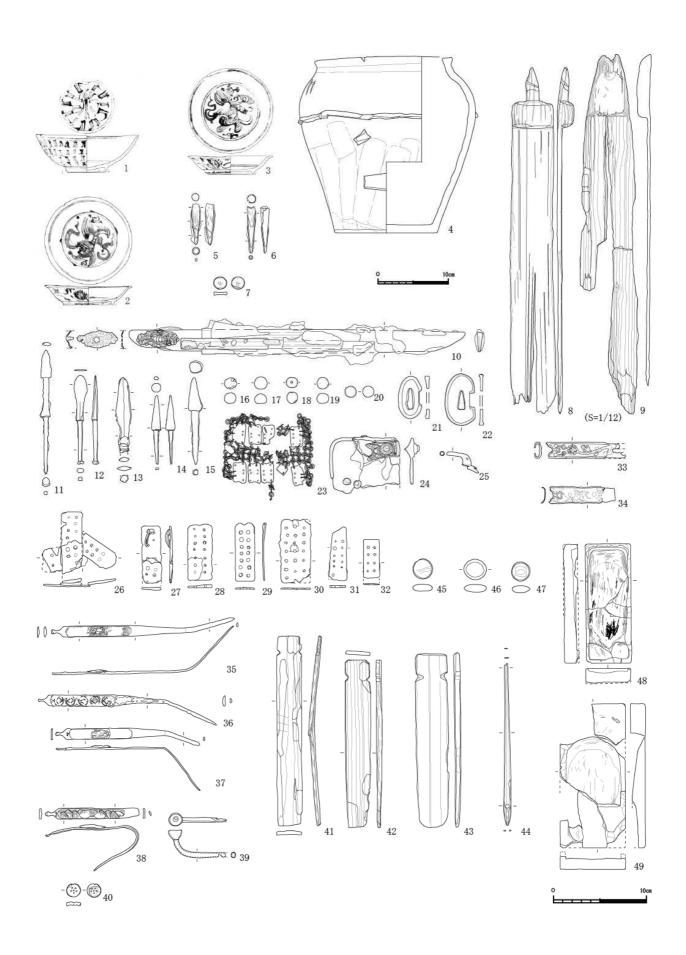
 45: 志野岡碗 (大 4)
 46·47: 志野皿 (大 4)
 48: 志野向付 (大 4)
 49: 唐津香型茶碗
 50: 唐津皿 (第 1 段階)
 51: 唐津大皿

図 3-18 勝山館跡 出土遺物 2



1:瀬戸・美濃鉄釉天目茶碗 $2\sim7:$ 高台シロシ入り白磁端反皿 $8\sim10:$ 玉 $11\sim14:$ 装飾品 $15\sim18:$ 中柄 $19\sim21:$ 鎌 22: 装飾品 $23\cdot24:$ 銛 25: 柄 $26\sim28:$ 未製品 29: 鞘 30: 矢柄 31: 弓 1: 鉦 $2\cdot3:$ 金剛杵 4: 香炉 $5\cdot6:$ 香炉脚 $7\cdot8:$ 花瓶 $9\cdot10:$ 六器碗 11: 六器台 12: 懸仏? $13\sim15:$ 錫杖鐶 16: 提版 17: 蓬萊鏡 $18\sim20:$ 数珠玉 21: 人形 22: 経石 23: 陽物 地鎮遺構出土品 $(24\cdot25:$ 青磁皿 $26\sim28:$ 灰釉皿)

図 3-19 勝山館跡 出土遺物 3



地鎮遺構出土品 (1: 染付碗 2・3: 染付皿 4: 越前壺) 5・6: 不明 7: 鹿角製双六駒 8・9: 碑伝形木製品 10: 脇差 (小柄共) $11\sim15$: 鏃 $16\sim20$: 弾丸 $21\cdot22$: 切羽 23: 小具足 24: 胸板 25: 輔のかえりツノ $26\sim32$: 小札 (伊予札) $33\cdot34$: 八双金具 $35\sim38$: 笄 39: 煙管 40: 鹿角製双六駒 $41\sim43$: 木簡 44: 不明 $45\sim47$: 碁石 $48\cdot49$: 硯

図 3-20 勝山館跡 出土遺物 4

②整備事業

勝山館跡は昭和53年(1978)に『史跡上之国勝山館跡・花沢館跡保存管理計画書』を策定し、昭和54 ~平成22年度(1979~2010)に他の館跡に先駆けて下記のとおり整備を進めている(表3-4、図3-21)。

・第1期整備(昭和54~平成2年度)

搦手・西郭・主郭の発掘調査及び整備を実施し、土葬墓群・ゴミ捨て場・館神八幡宮周辺の建物跡の平面表示、柵・木樋・井戸枠の復元を行った。館神八幡宮跡の整備では、近世に再建された八幡宮 覆屋の礎石跡の平面表示も行い、中世と近世遺構の表現が混在する状況となっている。

また、大手周辺の発掘調査を実施し、空堀の張芝などの整備も実施している。

·第2期整備(平成3~11年度)

主郭(客殿周辺)では、掘立柱建物跡や多種多様な遺物がみられ、史跡の内容を把握するための発掘調査を継続して実施した。平成11年度(1999)には、それらの知見を踏まえた「史跡勝山館跡等整備基本計画」を策定し、その後の整備方針の指針としている。

•第3期整備(平成12~22年度)

主郭(客殿周辺)を中心に建物の平面表示及び説明板、その他柵・橋・通路・側溝などの復元整備を行っている。史跡の散策路登り口にエントランス小広場の整備や旧笹浪家住宅附属米・文庫蔵(平成30年(2018)12月25日重文追加指定)を復原している。下り口には勝山館跡ガイダンス施設を建設し、模型とCGで勝山館跡の全体像を復元して、史跡のイメージをわかりやすく伝えている。

建物遺構の平面表示や模型の復元年代は、勝山館跡の機能した年代(1470~1600頃)のうち、最も構造が整った16世紀前葉(第Ⅲ期)を基準としている。

また、これらをまとめた整備事業報告書は、上ノ国町教育委員会が平成 18 年度 (2006) に『史跡上之国館跡整備事業報告書Ⅰ』、平成 19 年度 (2007) に『史跡上之国館跡整備事業報告書Ⅱ』、平成 22 年度 (2010) に『史跡上之国館跡Ⅳ』として刊行している。



写真 3-36 勝山館跡の整備状況(夷王山山頂から)

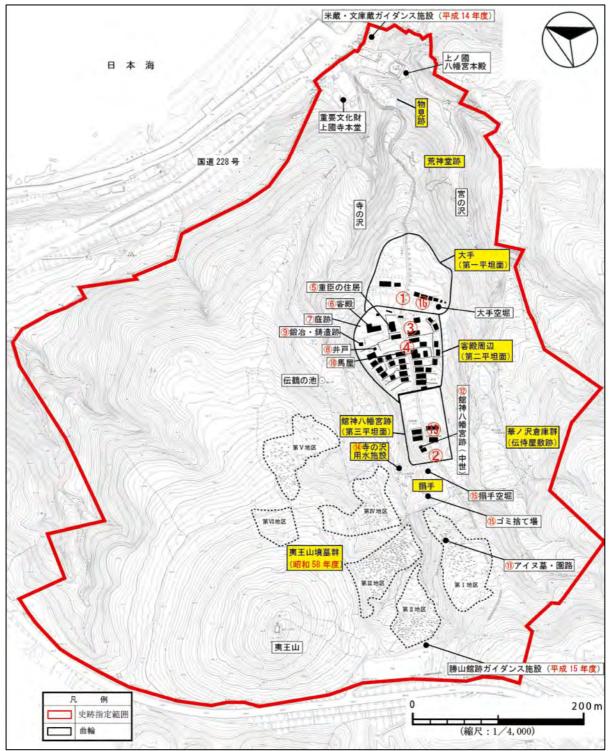


図 3-21 勝山館跡 整備位置図



写真 3-37 ①大手空堀・橋・柵の整備(H14年)



写真 3-38 ②搦手空堀・橋・柵(H14~16年)



写真 3-39 ④主郭(客殿周辺)の整備(H15年)



写真 3-40 ④主郭(客殿周辺)の整備(H15年)



写真 3-41 ⑤重臣の住居の整備 (H15年)



写真 3-42 ⑥客殿周辺の整備 (H15 年)



写真 3-43 ⑦庭跡の整備 (H15年)



写真 3-44 ⑧井戸跡・板塀跡の整備(H15年)



写真 3-45 ⑨鍛冶工房跡の整備 (H17年)



写真 3-46 ⑩馬屋跡 (H17年)



写真 3-47 ⑪アイヌ墓説明板・園路の整備 (H17年)



写真 3-48 ⑫館神八幡宮跡前園路·階段(H17年)



写真 3-49 ③館神八幡宮跡の整備 (S60年)



写真 3-50 ⑭寺の沢用水施設 井戸跡・木樋 (S61年)



写真 3-51 ⑮搦手 ゴミ捨て場・土葬墓群の整備 (S60年)



写真 3-52 16北郭 大手空堀 (H2年)

表 3-4 これまでの整備事業の概要

表 3-4	これまでの整備事業	の概要				
年	事業名		事業概要			報告書
度	7.1	種類	内 容	面積		TA LI EI
S54	史跡勝山館跡環	発掘調査	搦手空壕跡	400	m²	勝山館跡 I
	境整備事業	環境整備	史跡案内板 2 基設置、史跡説明板 1 基設			
S55	史跡勝山館跡環	発掘調査	置、旧境界標(No.1~No.44)設置 搦手空壕跡付近	1, 409	2	勝山館跡Ⅱ
255	史跡勝山館跡泉 境整備事業	衆掘調査 環境整備		1, 409	m	勝山毘邺Ⅱ
S56	史跡勝山館跡環	発掘調査		1,700	m²	勝山館跡Ⅲ
500	境整備事業	環境整備	搦手空壕芝張り	570	m²	10) E1 K1 10) III
S57	史跡勝山館跡環	発掘調査	館跡八幡宮跡、ゴミ捨て場ほか	1,700	m²	勝山館跡Ⅳ
	境整備事業	環境整備	搦手空壕芝張り、空壕跡植栽表示	1, 290	m²	
S58	史跡勝山館跡環	発掘調査	館跡八幡宮跡、ゴミ捨て場ほか		m²	勝山館跡V
	境整備事業	環境整備	土葬墓 41 基・ゴミ捨て場平面表示	747	m²	mit t felon loo
S59	史跡勝山館跡環	発掘調査	伝侍屋敷跡 	1, 100	m²	勝山館跡VI
S60	境整備事業 史跡勝山館跡環	環境整備	環境整備実施設計1式 館神八幡宮跡付近	400	2	勝山館跡Ⅷ
200	史跡勝山鴡跡琛 境整備事業	発掘調査 環境整備	出伊八幡呂跡竹辺 土塁・柵列復元、室町期創建・江戸期再建	480 741	mî m²	勝山毘跡 VⅡ
	先正师于未	垛 児歪哺	社跡平面表示、掘立柱建物 2 棟平面表示、	741	111	
			石積み階段・古道跡整備、説明板 1基設			
			置、表示板 5基設置、館神八幡宮跡周辺			
			芝張り、境界標設置			
S61	史跡勝山館跡環	発掘調査	伝侍屋敷跡土塁付近		m²	勝山館跡Ⅷ
	境整備事業	環境整備	寺の沢用水施設跡整備(木樋・井戸枠復	489	m	
			元)、園路整備、説明板 2 基設置、表示 板 12 基設置			
			伐採(仮整備)	25, 000	m²	
S62	史跡勝山館跡環	発掘調査	伝侍屋敷跡、館跡平坦部北側大手付近		m²	勝山館跡IX
	境整備事業	環境整備	四阿 1棟、説明板設置、搦手空壕跡植栽	450	m²	793 1 124177 ==
			表示			
			伐採 (仮整備)	,	m²	
S63	史跡勝山館跡環	発掘調査	館跡平坦部北側大手空壕付近		m²	勝山館跡X
	境整備事業	環境整備	大手空壕跡芝張り、説明板 1 基設置	1, 183	m	
H元	史跡勝山館跡環	発掘調査	(伐木、伐採(仮整備) (館跡平坦部北側大手空壕付近		m² m²	勝山館跡 X I
11 /6	境整備事業	環境整備	大手空壕跡芝張り・掘立柱建物跡平面表	1, 203	m²	防 山 阳 邓 八 1
	301111111111111111111111111111111111111	SK-SGIE IIII	示	1,200		
			伐木、伐採(仮整備)	26, 000	m²	
H 2	史跡勝山館跡環		館跡平坦部北側大手空壕付近	1, 200	m²	勝山館跡ⅩⅡ
	境整備事業	環境整備	大手空壕跡芝張り	740	m²	
** 0		=/4 lm =m →	伐採 (仮整備)	24, 000	m	INV. I . Avis Pale TV TV
Н3	史跡勝山館跡環 境整備事業	発掘調査	第二平坦面北東部分	1, 200	m	勝山館跡XⅢ
H 4	史跡勝山館跡環	発掘調査	第二平坦面北西部分	1, 100	m²	勝山館跡XIV
	境整備事業	3 - 1 - 1 / 1	7	,		
Н5	史跡勝山館跡環	発掘調査	第二平坦面北東中央部及び北西端部	1, 100	m²	勝山館跡XV
	境整備事業					
Н6	史跡勝山館跡環	発掘調査	第二平坦面北東中央部	1, 140	m	勝山館跡XVI
Н7	境整備事業 史跡勝山館跡環	発掘調査	 第二平坦面北東中央部	1, 230	2	勝山館跡ⅩⅧ
П	東	光旭神鱼	第二十坦田北宋中天司 	1, 230	m	份口品助A VII
Н8	史跡勝山館跡環	発掘調査	第二平坦面大手南西部	1,300	m²	勝山館跡ⅩⅧ
	境整備事業				_]	
Н9	史跡勝山館跡環	発掘調査	第二平坦面大手北西中央部	1,300	m²	勝山館跡XIX
	境整備事業					mit i k' - '
H10	史跡勝山館跡環	発掘調査	第一平坦面南半部西半及び北半部西半	800	m²	勝山館跡XX
Ш11	境整備事業 史跡勝山館跡環	発掘調査	宮ノ沢川右岸地区	950	n.2	
H11	史跡勝山館跡境 境整備事業	<u> </u>	呂ノ沢川石戸地区 墳墓群第Ⅱ地区(散策路予定地)	350 250	m² m²	勝山館跡XX I
	J.L.M.F.K	調査	宋金州水平省區 (166水)	200	111	-
		環境整備	史跡勝山館跡等整備基本計画報告書			

年	± 446 /5		事 業 概 要			+11 4- 4-
度	事業名	種類	内 容	面積		報告書
H12	史跡等活用特別	発掘調査	宮ノ沢川右・左岸地区	504	m²	勝山館跡XX
	事業(史跡勝山 館跡)	補充発掘 調査	墳墓群第 I ・ II 地区 (散策路予定地)	955	m	II
		環境整備	散策路整備	59	m²	整備事業報告 書 I • Ⅱ
H13	史跡等活用特別 事業(史跡勝山	補充発掘 調査	館跡中央通路、側溝跡	552	m²	勝山館跡ХХ Ⅲ
	館跡)	環境整備	散策路整備、搦手空壕木橋復元、米・文庫 蔵復元	319	m²	整備事業報告 書 I • Ⅱ
H14	史跡等活用特別 事業(史跡勝山	補充発掘調査	ガイダンス施設建設予定地(墳墓群第Ⅱ 地区)	391	m²	勝山館跡XX IV
	館跡)	環境整備	主郭保存整備(大手木橋復元、丸太柵列復 元ほか)、米・文庫蔵復元	3,800	m²	整備事業報告 書 I • Ⅱ
H15	史跡等総合整備 活用推進事業	補充発掘調査	ガイダンス施設建設予定地(墳墓群第Ⅱ 地区)、館跡中央通路	769	m²	勝山館跡XX V
	(史跡勝山館跡)	環境整備	主郭保存整備 (丸太柵列復元、遺構平面表 示)、ガイダンス施設建設、館跡全体模型	3,800	m²	整備事業報告 書Ⅰ・Ⅱ
H16	史跡等総合整備	補充発掘	製作、墳墓遺構レプリカ復元 勝山館跡 28J・K地区(墳墓群第 I 地区ほ	200	m²	勝山館跡XX
	活用推進事業(史跡勝山館	調査 環境整備	か) 主郭保存整備(遺構平面表示 7ヶ所、丸	3,800	m²	整備事業報告
	跡)		太柵列復元)、映像展示システム・映像ソフト制作			書Ⅰ・Ⅱ
H17	史跡等総合整備 活用推進事業 (史跡勝山館 跡)	環境整備	主郭保存整備(平面表示 9ヶ所、遺構説 明板 7ヶ所、中央通路跡整備 40m)	628	m	整備事業報告 書 I · Ⅱ
H18	史跡等登録記念 物保存修理事業 (史跡勝山館 跡)	環境整備	主郭保存整備(遺構配置説明板 2 基、遺構説明板 2 基)	23	m²	整備事業報告 書 I ・Ⅱ
H19	史跡等登録記念	発掘調査	第一平坦面(旧道跡)	600	m²	上之国館跡 I
	物保存修理事業 (史跡勝山館 跡)	環境整備	主郭保存整備(誘導案内板 5基、櫓門跡 平面表示 1式)	3	m²	上之国館跡IV
H20	史跡等登録記念	発掘調査	荒神堂跡・旧道跡	600	m²	上之国館跡Ⅱ
	物・歴史の道事 業(史跡勝山館 跡)	環境整備	エントランス小広場整備 65 ㎡、法面保護 100 ㎡	165	m²	上之国館跡IV
H21	史跡等登録記念	発掘調査	荒神堂跡・旧道跡	700	m²	上之国館跡Ⅲ
	物·歴史の道事 業(史跡勝山館 跡)	環境整備	代参道路手すり設置 34m、指定標柱 1基 設置	4	m²	
H22	史跡等登録記念	発掘調査	旧道跡・物見跡	700	m²	上之国館跡IV
	物・歴史の道事 業(史跡勝山館 跡)	環境整備	搦手柵列整備 29.7m、指定標柱 2基・総合案内板 1基設置	2	m²	
	合 計		調査面積	29, 620	m²	
	П П		整備面積	20, 249	m²	

第2節 史跡の本質的価値と構成要素

1. 指定当時の史跡の本質的価値

三館の史跡指定当時の評価は、昭和52年度(1977)の花沢館跡・勝山館跡の史跡指定理由及び平成17年度(2005)の洲崎館跡の追加指定理由より、以下のようにまとめることができる。

- ① 花沢館跡と勝山館跡は、空堀・土塁・曲輪など15世紀頃の遺構が明瞭に残存し、北海道の室町時代における和人の足跡を知る上で非常に重要な遺跡である。
- ② 洲崎館跡は、室町期の15~16世紀の道南和人社会の統轄者で、後の松前藩祖となった武田信広 (蠣崎氏)が築いた館として重要であり、既指定の花沢館及び勝山館と同様の歴史的意義をもつ。

2. 新たに確認された本質的価値

史跡指定後の発掘調査は、三館が機能した 15~16 世紀の室町時代以外の擦文時代、鎌倉時代、江戸時代の遺構や遺物が確認されるなど、その内容について多岐にわたる。

そして、それら史跡指定後の発掘調査の成果を加えた新たな価値については、以下のように整理することができる。

(1) 花沢館跡

- ① 大手及び搦手の空堀・土塁、柵、曲輪、切岸などの防御遺構が検出されたことで、堅固な山城であったことが確認された。
- ② 館が機能した時期は、出土陶磁器から十三湊安藤氏が津軽より北海道へ退去した永享4年(1432) 以降で、下限の年代については、蠣崎季繁が没する寛正2年(1462) とされている。
- ③ 文献史料の記述から和人の活動場所と考えられていたが、骨角器の出土によって館内におけるアイヌの活動痕跡も見えてきた。
- ④ 懸仏「如意輪観音」や茶道具の出土から、信仰・喫茶などに関わる活動も行われていたことが 判明した。

(2)洲崎館跡

- ① 空堀や洲崎館跡の年代に伴う遺物が確認された砂丘上に、主郭を築いたことが明らかとなった。
- ② 出土陶磁器から鎌倉時代(13世紀後葉)から生活の痕跡が認められ、16世紀初頭まで機能していたことが判明した。
- ③ 文献史料の記述から和人の活動場所と考えられていたが、骨角器やガラス玉の出土によって館内におけるアイヌの活動が見えてきた。
- ④ 軍事的な側面が知られていたが、銅鏡・香炉、天目茶碗・酒海壺・瓦質風炉、釣針の出土から 信仰・喫茶・漁労などの営みが明らかとなった。
- ⑤ 平安時代(10世紀)の青森県五所川原産須恵器が出土し、古代から中世に連続した交易活動の 痕跡が確認された。

(3) 勝山館跡

- ① 標高約 100m の主郭を中心に大きく北郭、東郭、西郭の曲輪で構成され、主郭の前後を空堀で区切り、左右を深い谷による自然地形を利用して防御を固めている山城であったことが判明した。
- ② 出土陶磁器から館神八幡宮が創建される文明5年(1473)頃から16世紀末に機能した山城であることが明らかとなった。
- ③ 客殿が所在する曲輪で200棟以上の掘立柱建物の他、竪穴建物跡、礎石建物跡が検出され、館内における活動の中心の主郭であることが判明した。
- ④ 文献史料から和人の活動拠点と認識されていたが、発掘調査でアイヌ墓が発見されたことにより、館内で和人とアイヌの混住の様子が見えてきた。
- ⑤ 多様な密教法具や念仏鉦などの宗教関連遺物の出土から、館内における仏教儀礼の活動が認識 された。鍛冶鋳造関係の遺構・遺物から、金属製品の生産活動を行っていたことが明らかとなった。

- ⑥ 主郭で井戸の遺構が少ないことや寺の沢用水施設(井戸・貯水池・木樋)の検出から、生活用水として沢水を積極的に利用していたことが確認された。
- ① 出土遺物の生産地から中国・朝鮮・琉球・東南アジアを含んだ交易圏に属する拠点と位置付けられた。
- ⑧ 木製品の樹種同定から木製品の樹種の8割近くがヒノキアスナロであったため、ヒノキアスナロを選択して使用する状況が判明した。
- ⑨ 出土遺物が北海道南部における当時の生活や本州と北海道の交易・物資の流通、アイヌの人々との関係等を解明する上で欠かせない資料と評価されたことから、平成20年(2008)7月10日付で921点が重要文化財「北海道上ノ国勝山館跡出土品」に指定された。

3. 構成要素の概要

史跡上之国館跡の本質的価値を構成する主な要素は、頂上に位置する主郭をはじめとして斜面を切り開いて造成した曲輪、土塁・空堀などの「地上に表出している遺構」や「発掘調査で明らかとなった遺構・遺物」である。

勝山館跡は、昭和54年度(1979)以降の「発掘調査で明らかとなった遺構・遺物」に基づき、整備 事業で復元・設置された遺構、サイン、便益施設が存在する。

一方、花沢館跡や洲崎館跡は、平成 11 年度 (1999) から断続的に遺構確認調査が実施されているが、整備事業で史跡名称標柱のサインが設置されているのみである。また、史跡指定地内は廃城後に生育した樹林または植林などが形成され、曲輪を覆っている。

本計画では、これらの史跡に所在する構成要素を「本質的価値を構成する諸要素」、「本質的価値を構成する諸要素に密接に関係する諸要素」、「保存・活用のために復元・設置した諸要素」、「その他の要素」の4つに区分した。

(1) 本質的価値を構成する諸要素 (表 3-5~3-7)

史跡上之国館跡の本質的価値を構成する諸要素は、「地上に表出している遺構」(土塁、空堀、曲輪、墳墓、切岸等)や北日本の中世社会を物語る多種多様な15~16世紀の「発掘調査で明らかとなった遺構・遺物」である。ただし、洲崎館跡からは館築城以前の13世紀後葉の遺物が確認され、その後の洲崎館跡の成立に密接に関わっていることが考えられるため、当時期の遺構・遺物についても本要素に含めるものとする。

また、勝山館跡の西郭には寺の沢の水を利用した水場遺構が確認されるため、寺の沢について本要素として取り扱う。

その他、主郭や物見及び社寺の遺構が想定される地点は、館内外の監視や他所と交信する場所でも あったため、これらの地点からの良好な景観についても本要素として取り扱う。

表 3-5 花沢館跡の本質的価値を構成する諸要素 (図 3-22)

	区画	地上に表出している遺構	発掘調査で明らかとなった遺構・遺物	地形・景観
主郭	В	土塁・空堀 (搦手)、曲輪、 腰曲輪・切岸、旧道跡	■遺構:土塁・空堀(大手)、柱穴、旧 道跡、焼土層 ■遺物:陶磁器、金属製品(鉄製品・銅 製品)、銅銭、石製品、骨角器	■景観: 洲崎館跡を 望む眺望
腰曲輪		腰曲輪・切岸、旧道跡	■遺構:柵列 ■遺物:陶磁器、金属製品(鉄製品)、 石製品	■景観:主郭を望む 眺望
そ	指定地内			
の他	指定地外	_	_	

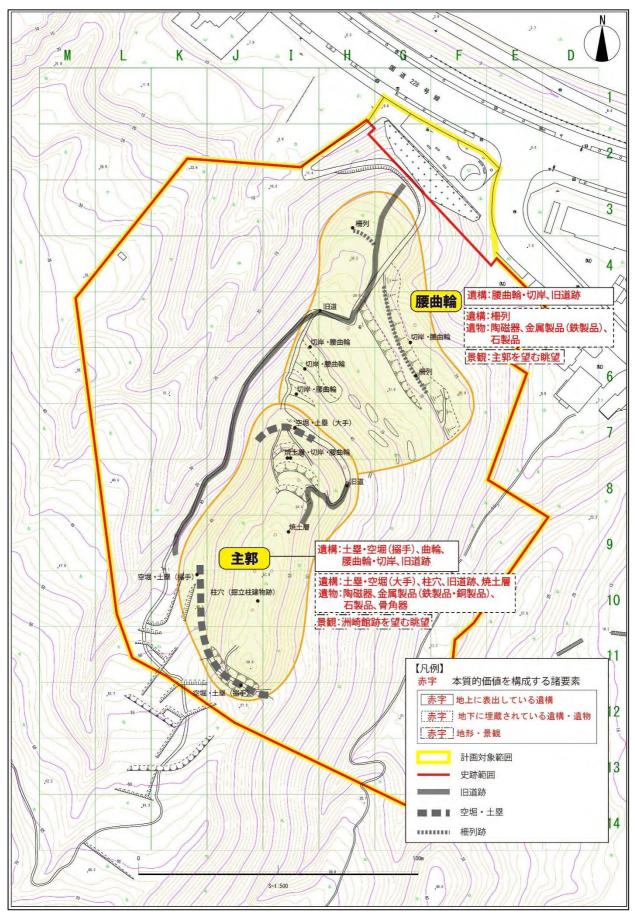


図 3-22 花沢館跡の本質的価値を構成する諸要素

表 3-6 洲崎館跡の本質的価値を構成する諸要素 (図 3-23)

区	画	地上に表出している遺構	発掘調査で明らかとなった遺構・遺物	地形・景観
主郭		土塁、空堀、曲輪	■遺構:柱穴 ■遺物:陶磁器(15世紀中葉)、金属製品、銅銭	■景観: 花沢館跡・勝 山館跡を望む眺望
± 50	指定地内	曲輪	■遺構:柵列、掘立柱建物跡・竪穴建物、 柱穴、土壙	■景観:主郭を望む 眺望
南郭	指定地外		■遺物:陶磁器(13世紀後葉~)、金属 製品、銅銭、骨角器、ガラス玉	
その他	指定地内	_	-	_

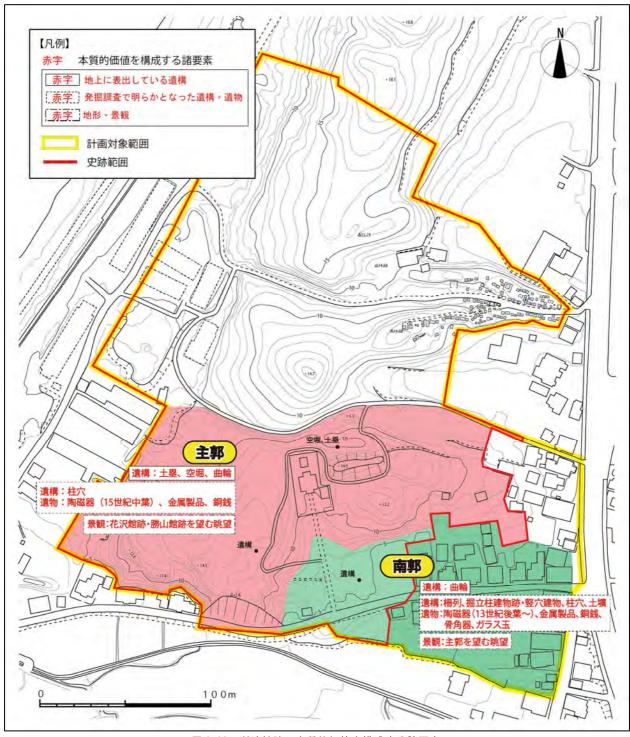


図 3-23 洲崎館跡の本質的価値を構成する諸要素

表 3-7 勝山館跡の本質的価値を構成する諸要素(図 3-24)

	区画	地上に表出している遺構	発掘調査で明らかとなった遺構・遺物	地形・景観
夷丑	·山墳墓群	墳墓盛土	■遺構:和人墓(土葬・火葬・火葬施設)、 アイヌ墓、配石遺構 ■遺物:木棺・和釘、副葬品(漆器、銅 銭、数珠玉、太刀他)	■景観:主郭を望む 眺望、洲崎館を望む 眺望
搦手	<u>L</u>	_	■遺構:空堀(橋)跡、ゴミ捨て場、和 人墓(土葬)、柵列跡 ■遺物:陶磁器、金属製品、木製品、自 然遺物(魚貝骨、獣骨等)	_
西郭	寺の沢 用水施設	曲輪	■遺構:寺の沢用水施設(井戸跡、貯水池、木樋) ■遺物:陶磁器、金属製品、木製品、ソバ・ドクダミの花粉	■地形:寺の沢 ■景観:主郭を望む 眺望
	鶴の池	_	_	_
東郭	華の沢 倉庫群	曲輪	■遺構:掘立柱建物跡、地割 ■遺物:陶磁器、金属製品	■景観:主郭を望む 眺望
主郭	客殿周辺	曲輪	■遺構:物見跡、柵列跡、馬屋跡、井戸跡、中央通路跡、排水溝跡、客殿・庭跡、鍛冶鋳造跡、櫓門跡、竪穴建物跡・掘立柱建物跡・礎石建物跡・板塀跡 ■遺物:陶磁器、金属製品、石製品、土製品、鍛冶鋳造関連遺物(羽口、るつぼ、銅滴、銅滓)	■景観:夷王山・北郭・東郭・西郭、天の 川河口・洲崎館跡を望む眺望
	館 神 八 幡宮周辺	曲輪、土塁	■遺構:館神八幡宮跡、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、柵列跡、中央通路 ■遺物:陶磁器、金属製品、銅銭、石製品	■景観:夷王山を望む眺望
北郭	В	曲輪、虎口(空堀・土塁)、 旧道跡	■遺構:大手空堀(橋)、虎口(空堀・橋・士塁)、中央通路(側溝)、和人墓(土葬・火葬) ■遺物:木製品、シロシ入り白磁、副葬品(漆器、銅銭他)、魚貝骨	■景観:主郭を望む 眺望
	荒神堂跡	旧道跡	■遺構:荒神堂(礎石建物跡)、和人墓 (土葬)、アイヌ墓、旧道跡 ■遺物:陶磁器、金属製品、木棺、釘、 副葬品(漆器、銅銭他)	_
大手	物見跡	曲輪、旧道跡	■遺構:物見跡、和人墓(土葬)、旧道跡 跡 ■遺物:陶磁器、金属製品、木棺、釘、 副葬品(漆器、銅銭他)	■景観:天の川河口、 洲崎館跡を望む眺望
	町屋	_	■遺構:空堀状遺構、掘立柱建物跡、和 人墓(土葬) ■遺物:陶磁器、金属製品、陶磁器、木 棺、釘、副葬品(漆器、銅銭他)	_
その	指定地内	_	_	_
他	指定地外	_	_	_

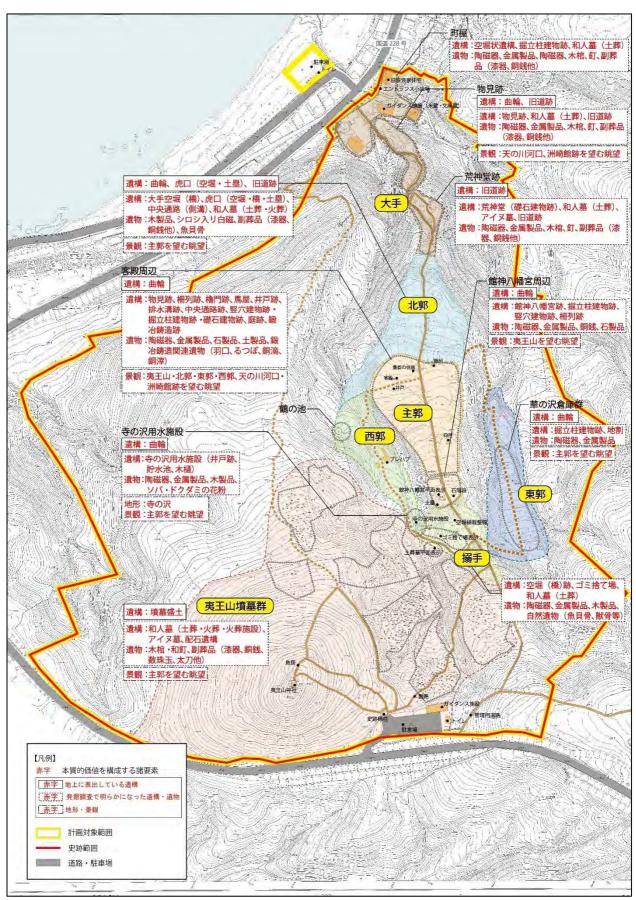


図 3-24 勝山館跡の本質的価値を構成する諸要素

(2) 本質的価値を構成する諸要素に密接に関係する諸要素(表 3-8~3-10)

三館の発掘調査では、中世以外の古代や近世の遺構・遺物が確認されている。洲崎館跡では、古代から既に本州との交易活動に従事していた人たちが存在しており、引き続き中世の交易が営まれていたと考えられる。近世では、洲崎館跡と勝山館跡を築城した武田信広が松前藩祖として取り扱われ、館廃絶後も中世に創建された館神八幡宮、医王山薬師堂、毘沙門堂などに松前藩主や家臣が参拝に訪れ、それらに関する遺構・遺物が残っている。

また、曲輪周辺の沢は、自然地形を生かして曲輪の防御に利用されていることが判明している。

これらの要素ついては、本質的価値と密接に関わっているものの史跡指定及び追加指定当時の指定理由に含まれていないことから、「本質的価値を構成する諸要素」とは分け、本質的価値に準ずるものとして「本質的価値を構成する諸要素に密接に関係する諸要素」とした。

表 3-8 花沢館跡の本質的価値を構成する諸要素に密接に関係する諸要素(図 3-25)

区画		地上に表出している遺構	発掘調査で明らかとなった遺構・遺物	地形・景観
主郭		_	_	■地形:岩田の沢、花 見館沢、お浪沢
腰曲	输	_	_	
その	指定地内	_	_	_
他	指定地外	_	_	_

表 3-9 洲崎館跡の本質的価値を構成する諸要素に密接に関係する諸要素(図 3-26)

	区画	地上に表出している遺構	発掘調査で明らかとなった遺構・遺物	地形・景観
主郭	3	■遺構(近世):砂館神社(本殿、拝殿、境内地)	■遺物(古代):擦文土器 ■遺物(近世):陶磁器	■地形:砂丘
南郭	指定地内 指定地外	■遺構(近世):砂館神 社(参道、灯篭)	■遺構(古代):竪穴建物 ■遺物(古代):擦文土器・須恵器	_
その他	指定地内	_	_	_

表 3-10 勝山館跡の本質的価値を構成する諸要素に密接に関係する諸要素(図 3-27)

	区画	地上に表出している遺構	発掘調査で明らかとなった遺構・遺物	地形・景観
夷王山墳墓群		■遺構 (近世):夷王山神社 ■遺構 (近世):歴史の道	I	_
搦手	Ē	■近世-遺構:旧道跡 (西側ルート)	_	_
西郭	寺の沢 用水施設	_	_	
郭	鶴の池	鶴の池(配石遺構)		
東郭	華の沢 倉庫群	■遺構(近世): 土塁	■遺構(近世):門、石列 ■遺物(近世):陶磁器	■地形:華の沢
主	客殿周辺	_	■遺構(近世):中央通路跡、鳥居 ■遺物(近世):陶磁器、金属製品	■地形:宮の沢、寺の沢
郭	館神八幡 宮周辺	■遺構(近世): 土塁、 礎石(館神八幡宮跡覆 屋)、石積、石段	■遺構(近世):館神八幡宮跡、中央通路 跡、鳥居 ■遺物(近世):陶磁器、金属製品、銅銭	■地形:宮の沢、寺の 沢

		■遺構(近世):旧道跡	■遺構(近世):中央通路跡、和人墓(土	■地形:宮の沢、寺の
北郭	ß		葬・火葬) ■遺物(近世):陶磁器、金属製品、副葬	沢
			品(漆器、銅銭他)	
		■遺構(近世):荒神堂	■遺構(近世):柵(礎石、布掘)、鳥居、	
	荒神堂跡	跡(石積・階段)	和人墓、旧道跡 ■遺物(近世):陶磁器、金属製品、木棺、	_
			」 」 」 」 、 。 、 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	
			■遺構(近世):礎石建物跡、和人墓(土	
大手	物見跡	_	葬)、旧道跡 ■遺物(近世):陶磁器、金属製品、木棺、	_
手			■ 週初(近世): 阿椒品、金属聚品、不信、 釘、副葬品(漆器、銅銭他)	
		■遺構(近世):上国寺	■遺構:空堀状遺構、掘立柱建物跡、和人	
		本堂、上ノ國八幡宮本	墓(土葬)、柱穴	
	町屋	殿	■遺物(近世):陶磁器、金属製品、木棺、	_
			「釘、副葬品(漆器、銅銭他)、宮の沢右岸	
			出土品(イクパスイ、アイヌ弓、祈祷具)	
その	指定地内			
他	指定地外	_	_	_

(3) 史跡の保存・活用のために復元・設置した諸要素(表 3-11~3-13)

史跡上之国館跡のうち勝山館跡は、整備事業で花沢館跡・洲崎館跡に先行して建物平面表示、空堀・ 土塁、橋、柵、サインなどの工作物を復元及び設置している。

本諸要素は、「本質的価値を構成する諸要素」や「本質的価値を構成する諸要素に密接に関係する諸要素」をわかりやすく明示するために復元・設置した工作物を「史跡の保存・活用のために復元設置した諸要素」とした。

表 3-11 花沢館跡の史跡の保存・活用のために復元・設置した諸要素 (図 3-25)

区画		整備事業(国庫補助)で設置	その他の事業で設置	
主郭		_	_	
腰曲輪		_	説明板、通路	
その他	指定地内	_	_	
	指定地外	史跡名称標柱	_	

表 3-12 洲崎館跡の史跡の保存・活用のために復元・設置した諸要素 (図 3-26)

区画		整備事業(国庫補助)で設置	その他の事業で設置
主郭		_	_
南郭	指定地内	史跡名称標柱	説明板
	指定地外	_	_
そ の 他	指定地内	1	_

表 3-13 勝山館跡の史跡の保存・活用のために復元・設置した諸要素 (図 3-28)

区画		整備事業(国庫補助)で設置	その他の事業で設置
夷王山墳墓群		墓標柱、ガイダンス施設、管理用道路、園 路、説明板、案内標識、史跡標柱、張芝	トイレ、駐車場
搦手		空堀・土葬墓の植栽整備、柵列、木橋、木 製階段、ゴミ捨て場表示丸太、説明板、遺 構表示	_
西郭	寺の沢 用水施設	寺の沢用水施設(井戸跡、貯水池、木樋)	_
	鶴の池	_	_

東郭	華の沢 倉庫群	_	_
主郭	客殿周辺	客殿・重臣の住居・鍛冶鋳造跡・庭・井戸・ 馬屋等平面表示、中央通路、櫓門、柵列、 四阿、説明板	トイレ、水道
	館 神 八 幡 宮 周辺	館神八幡宮平面表示(中世・近世)、土塁 (近世)、石階段、石積、掘立柱建物平面 表示、説明板、中央通路	_
北郭	ß	園路・木製階段、案内標識、説明板	_
大手	荒神堂跡	_	説明板、ベンチ、コンクリートブロック通路 跡
	物見跡	手摺、ガイダンス施設(米蔵・文庫蔵)、 エントランス小広場	コンクリートブロック階段
	町屋	案内標識	_
その	指定地内		_
の他	指定地外	説明板	駐車場、トイレ

(4) その他の諸要素(表 3-14~3-16)

現地で確認される史跡の保全に寄与する自然環境や「史跡の保存・活用のために復元設置した諸要素」以外の工作物を「その他の諸要素」とした。

表 3-14 花沢館跡のその他の諸要素 (図 3-25)

	区画	自然環境	工作物
主郭		■草 花:ワラビ、エゾノコンギク、クマイチゴ、キクザキイチゲ、ヤマグワ、イタヤカエデ、オオハンゴンソウ (特定外来生物)等 ■樹 木:クロマツ、ヤマブドウ、クサフジ	_
腰曲輪		 ■草 花:ヒトリシズカ、オオバナノエンレイソウ、オオウバユリ、キバナノアマナ、タチツボスミレ、ヒカゲスミレ、ツリフネソウ、キクザキイチゲ、エゾノコンギク、サンショウ、チゴユリ、エゾタンポポ等 ■樹 木:スギ、クロマツ、トドマツ、カラマツ、ミズナラ、オオヤマザクラ、コブシ、ツタウルシ、ツルアジサイ等 ■生 物:エゾリス、ヒグマ、エゾシカ、キツネ等 	
その他	指定地内	 車 花:リョウメンシダ、オシダ、サイハイラン、マイヅルソウ等 ■樹 木:イタヤカエデ、ミズナラ、ウワミズザクラ、クリ、ヤマグワ、オニグルミ、ヤマナラシ、アカマツ、ハイイヌガヤ、オオバクロモジ、エゾツリバナ、ムラサキシキブ、エゾニワトコ、クズ、サルナシ等 ■生 物:エゾリス、ヒグマ、エゾシカ、キツネ等 	_
	指定地外	_	のんびりお月様公園

表 3-15 洲崎館跡のその他の諸要素(図 3-26)

区画		自然環境	工作物
主郭	3	■草 花:エゾエンゴサク、キバナノアマナ、クマザサ等■樹 木:クロマツ(保安林)、イタヤカエデ、ギンドロ	_
南郭	指定地内	■草 花:エゾエンゴサク、キバナノアマナ■樹 木:スギ、ヒノキアスナロ	参道、鳥居、玉垣、神 社倉庫、リサイクルガ レージ、道路
	指定地外	_	民家、道路
その他	指定地内	■草 花:エゾエンゴサク、キバナノアマナ、クマザサ等■樹 木:クロマツ(保安林)、イタヤカエデ、ギンドロ等	_

表 3-16 勝山館跡のその他の諸要素(図 3-28)

	区画	自然環境	工作物
夷王	E山墳墓群	■草 花:ススキ、コウボウ、トダシバ、アサツキ、エゾフウロ、エゾカワラナデシコ、トウゲブキ、ハマイブキボウフウ、ヤマハギ、ツリガネニンジン、アオモリアザミ、ハイイヌガヤ、エゾノコンギク、シラヤマギク、ヤマハハコ、オオバクロモジ、フッキソウ、エゾアジサイ、クサソテツ、イヌガンソク、ヒトリシズカ、ツチアケビ、サルナシ、ヤマシャクヤク、サラシナショウマ、コマユミ、ヤマブキショウマ、ムカゴイラクサ、アキカラマツ等 ■樹 木:アカマツ、エゾイタヤ、カシワ、ミズナラ、シナノキ、アオダモ、コブシ、イワガラミ、ハリギリ、クコ、ウメモドキ、ヤマグワ、キツネヤナギ、ガマズミ、ヤマツツジ等 ■生 物:ニホンザリガニ等	石段、鳥居
搦手		■樹木: サクラ、キリ、スモモ、クリ	_
西郭	寺の沢 用水施設 鶴の池	■草 花:エゾタチカタバミ、クマザサ、ハイイヌガヤ、ツタウルシ、ヒメアオキ■樹 木:スギ、トドマツ、ヒバ(樹齢約80年)、ミズナラ、クリ、ホオノキ、シナノキ、オオバクロモジ、タラノキ	プレハブ
	田祠 リン / 巴	■生 物:エゾサンショウウオ ■草 花:ヒメアオキ、ハイイヌガヤ、クマザサ、コタニワタリ、	
東郭	華の沢 倉庫群	オシダ、クジャクシダ、ヤエムグラ、ヤマソテツ、キツリフネ、オオバクロモジ、シオデ、ツルマサキ、チゴユリ、オニウコギ、タケシマラン、オオカメノキ、サイハイラン、ヨブスマソウ、ムカゴイラクサ、エゾニュウ ■樹 木:ハリギリ、イタヤカエデ、イチイ、アオダモ、ツリバナ■生 物:ヒグマ、エゾシカ、キツネ	_
主	客殿周辺	■草 花:ブタナ、エゾノコンギク■樹 木:スギ、トドマツ、エゾイタヤ、ミズナラ、シナノキ、エゾエノキ、オニグルミ	トイレ、水道
郭	館 神 八 幡 宮周辺	■樹 木:イタヤカエデ、ノリウツギ	_
北享	ß	■草 花:タンポポ類、キバナノアマナ、エゾノコンギク、オオイタドリ、エゾニュウ、オクヤマザサ■樹 木:モモ、アンズ、アカスグリ、ヤエザクラ■生 物:キツネ、エゾシカ	_
大手	荒神堂跡	■草 花:エゾエンゴサク、キクザキイチゲ、アズマイチゲ、キバナノアマナ、オオバナノエンレイソウ、エンレイソウ、ユキザサ、サイハイラン、オオウバユリ ■樹 木:ハリギリ、ホオノキ、カシワ、キハダ、エゾエノキ、イチイ、コブシ、エゾツリバナ、ハイイヌガヤ	コンクリート張り水路(宮の沢・寺の沢)
	物見跡	■草 花:エゾエンゴサク、キクザキイチゲ、アズマイチゲ、キバナノアマナ、オオバナノエンレイソウ、エンレイソウ、ユキザサ、オクトリカブト、ニリンソウ ■樹 木:エゾイタヤ、ミズナラ、キハダ、スギ、フジ、オオバクロモジ	コンクリート張り水 路(宮の沢・寺の沢)
	町屋	■樹木:スギ、ヒバ、エゾエノキ	コンクリート張り水 路(宮の沢・寺の沢)、 上下水道、配電線 持物、防火水槽、地田 電線ケーブル、日 浪家住宅、上ノ國八 幡宮社務所・境内地、 上國寺庫裏
その他	指定地内	■草 花:クマザサ、ハイイヌガヤ、ツタウルシ、ヒメアオキ、サンショウ、オオバクロモジ、マユミ、シラヤマギク、イヌツゲ■樹 木:スギ、トドマツ、ヒバ、エゾイタヤ、ミズナラ、クリ、ホオノキ、シナノキ、オオカメノキ、アキグミ	_
	指定地外		_

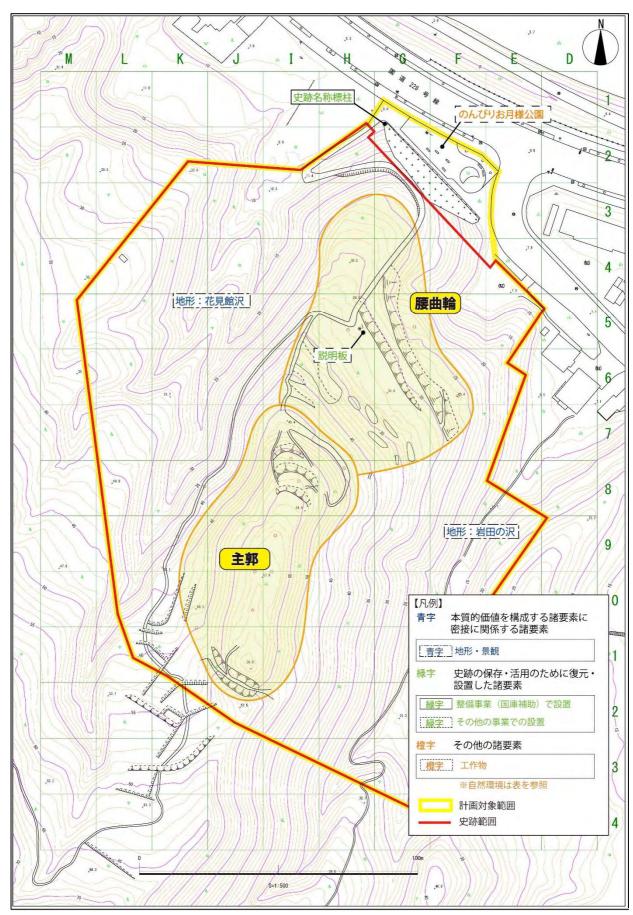


図 3-25 花沢館跡の本質的価値を構成する諸要素に密接に関係する諸要素・ 保存・活用のために復元・設置した諸要素・その他の諸要素

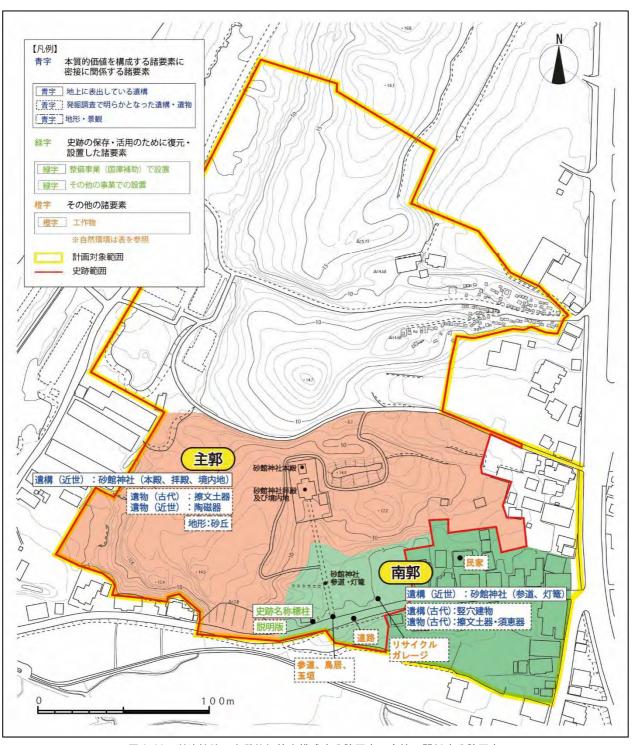


図 3-26 洲崎館跡の本質的価値を構成する諸要素に密接に関係する諸要素・保存・活用のために復元・設置した諸要素・その他の諸要素

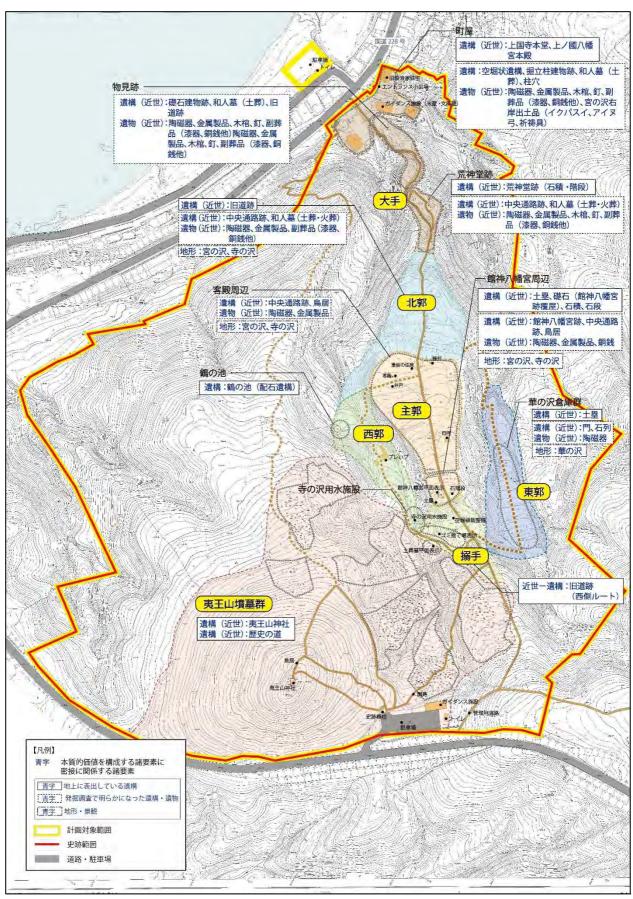


図 3-27 勝山館跡の本質的価値を構成する諸要素に密接に関係する諸要素

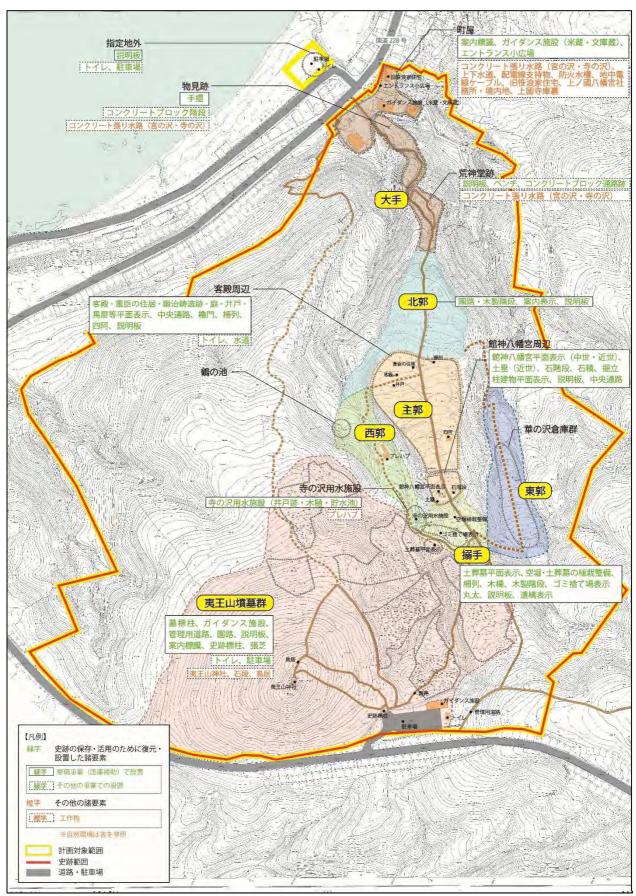


図 3-28 勝山館跡の保存・活用のために復元・設置した諸要素・その他の諸要素